

平成**31**年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査

報告書

児童生徒一人一人の学力・学習状況に
応じた学習指導の改善・充実に向けて

中学校 英語

令和元年 7月
文部科学省 国立教育政策研究所

目 次

1. 調査の概要	1
(1) 調査の目的	2
(2) 調査の対象とする児童生徒	2
(3) 調査事項及び手法	2
(4) 調査の方式	3
(5) 調査日時	3
(6) 中学校の英語「話すこと」調査にかかる特例的な措置に伴う対応に関して	3
(7) 集計児童生徒・学校数	4
(8) 調査結果の解釈等に関する留意事項	6
2. 教科に関する調査の結果（概要）	7
(1) 調査問題の内容，課題等，指導改善のポイント	8
(2) 集計結果（正答等の状況）	10
(3) 地域の規模等の状況	14
(4) 都道府県・指定都市の状況	14
(5) 教育委員会の状況	15
(6) 学校の状況	15
(7) 国・公・私立学校の状況	16
3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題	17
(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方	18
(2) 中学校 英語	21
● 聞くこと，読むこと，書くこと	
① 情報を正確に聞き取る	22
② 話の概要を聞き取る	27
③ 聞き手として必要な情報を聞き取る	29
④ 聞いた内容について適切に応じる	31
⑤ 情報を正確に読み取る	37
⑥ 話のあらすじを読み取る	41
⑦ 説明文の大切な部分を読み取る	43
⑧ 読んだ内容について適切に応じる	45
⑨ 語や文法事項等を理解して正しく文を書く	49
⑩ まとまりのある文章を書く	62
● 話すこと	
① 基本的な表現を理解して正しく応答する	69
② 即興でやり取りをする	76
③ まとまりのある内容を話す	81

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象とする児童生徒

【小学校調査】

小学校第6学年，義務教育学校前期課程第6学年，特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

中学校第3学年，義務教育学校後期課程第3学年，
中等教育学校前期課程第3学年，特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査事項及び手法

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語，算数・数学，英語〕

国語，算数・数学，英語はそれぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に出題。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

(イ) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

英語においては，「聞くこと」，「読むこと」，「話すこと」，「書くこと」に関する問題を出題。

※調査問題は現行の学習指導要領（平成20年告示）に示された目標及び内容等に基づいて作成。

イ 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等
- ・部活動に関する状況
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等

② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等
- ・カリキュラム・マネジメントなど，学校運営に関する取組状況
- ・教職員の資質能力の向上
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・各教科の指導方法

※調査項目は毎年度文部科学省において決定。

※全国学力・学習状況調査の開始当初（平成19年度）と比べて質問紙調査の質問項目数が増加し，平成30年度より，毎年調査する項目と数年おきに調査する項目を分別し，質問項目数を選定。

(4) 調査の方式
悉皆調査

(5) 調査日時
平成 31 年 4 月 18 日 (木)

【小学校調査】

1 時限目	2 時限目	
国語 (45 分)	算数 (45 分)	児童質問紙 (20~40 分程度)

【中学校調査】(例：6 学級の場合)

1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目	6 時限目
国語 (50 分)	数学 (50 分)	英語 「聞くこと」 「読むこと」 「書くこと」 (45 分)	生徒質問紙 (20~45 分程度) 等	英語 「話すこと」 (1 組, 2 組, 3 組)	英語 「話すこと」 (4 組, 5 組, 6 組)

<補足>

※「話すこと」調査の所要時間は、1 学級当たり 5 分（準備や移動に要する時間を含み 15 分）程度。
※原則として、同一学級の生徒を一斉に、かつ、調査対象学年の生徒全員が 3 単位時間以内で調査を行う。（学級規模等により「話すこと」調査の所要時間が 5、6 時限目で収まらない場合は、4 時限目も「話すこと」調査の実施に充てることができる。）

(6) 中学校の英語「話すこと」調査にかかる特例的な措置に伴う対応に関して
実施要領 7. (3) のとおり、英語の調査結果としては、「聞くこと」、「読むこと」、
「書くこと」の合計を集計。

【抜粋】平成 31 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（平成 30 年 12 月 14 日付）

7. 中学校の英語のうち、「話すこと」に関する問題の実施にかかる特例的な措置

英語「話すこと」に関する問題は、初めて各学校のコンピュータ教室等の PC 端末等を活用し、音声録音方式で実施するものであり、各学校の ICT 環境が様々であることから、平成 31 年度に限り、特例的な措置として、以下のとおり、取り扱うこととする。

(1) 「話すこと」に関する問題については、設置管理者が各学校の ICT 環境の整備状況を把握し、各学校の状況を十分踏まえた上で、検討し、設置管理者の判断により学校単位で「話すこと」に関する問題を実施しないこととすることができる。

(2) 「話すこと」に関する問題の実施状況については、調査実施後に文部科学省において確認の上、実施校の全国総数のみを公表する。

(3) 中学校英語調査の結果については、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計する。また、「話すこと」に関する問題の結果については、全国の平均正答数及び平均正答率を別に集計して「参考値」として公表することとし、都道府県別、指定都市別の公表は行わない。

(4) 上記 (1) により「話すこと」に関する問題を実施しなかった学校においても、「話すこと」に関する問題及び調査結果を活用した授業改善が行えるよう、調査実施後すみやかに、調査問題、正答例、問題趣旨及び解答類型を公表する。

(7) 集計児童生徒・学校数

① 集計基準

児童生徒に対する調査について、平成31年4月18日に実施された教科に関する調査及び質問紙調査の結果を集計。学校に対する質問紙調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

② 集計児童生徒数

(小学校第6学年，義務教育学校前期課程第6学年，特別支援学校小学部第6学年)

	調査対象児童数※1	4月18日に調査を実施した児童数※2	【参考】 4月18日～5月7日に調査を実施した児童数
公立	1,062,730人	1,028,203人	1,036,624人
国立	6,468人	6,273人	6,322人
私立	12,663人	6,030人	6,668人
合計	1,081,861人	1,040,506人	1,049,614人

(中学校第3学年，義務教育学校後期課程第3学年，
中等教育学校前期課程第3学年，特別支援学校中学部第3学年)

	調査対象生徒数※1	4月18日に調査を実施した生徒数※2	【参考】 4月18日～5月7日に調査を実施した生徒数
公立	1,002,814人	938,888人	943,028人
国立	10,698人	9,894人	10,384人
私立	79,068人	28,588人	29,652人
合計	1,092,580人	977,370人	983,064人

※1 調査対象児童生徒数について、公立・国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、平成30年度学校基本調査による。調査当日までの転入出等により増減の可能性がある。

※2 調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

③ 集計学校数

(小学校, 義務教育学校前期課程, 特別支援学校小学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	4月18日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 4月19日～5月7日 に調査を実施し た学校数	【参考】 4月18日～5月7日 に調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	19,299校	19,263校 (99.8%)	12校	19,275校 (99.9%)
国立	75校	75校 (100.0%)	0校	75校 (100.0%)
私立	226校	117校 (51.8%)	7校	124校 (54.9%)
合計	19,600校	19,455校 (99.3%)	19校	19,474校 (99.4%)

(中学校, 義務教育学校後期課程, 中等教育学校前期課程, 特別支援学校中学部)

	調査対象者の 在籍する学校 数	4月18日に調査を 実施した学校数 (実施率%)	【参考】 4月19日～5月7日 に調査を実施し た学校数	【参考】 4月18日～5月7日 に調査を実施した学校 数 (実施率%)
公立	9,572校	9,513校 (99.4%)	32校	9,545校 (99.7%)
国立	80校	77校 (96.3%)	3校	80校 (100.0%)
私立	757校	360校 (47.6%)	10校	370校 (48.9%)
合計	10,409校	9,950校 (95.6%)	45校	9,995校 (96.0%)

(8) 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

本調査の結果においては、国語、算数・数学、英語ごとの平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、平均正答数、平均正答率のみならず、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが必要である。また、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

<用語説明>

語句	説明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均。
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語、算数・数学、英語ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
最頻値	集団のデータにおいて、最も多く現れる値。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。
相関係数	二つの変数間の関係の程度を一つの数値で表す指標。相関係数は、-1から1までの範囲の値をとり、1に近いほど正の相関、-1に近いほど負の相関が強いことを表す。
解答類型	各設問についての正答、予想される解答などの解答状況を分類し整理したもの。

2. 教科に関する調査の結果（概要）

(1) 調査問題の内容、課題等、指導改善のポイント

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている4領域（「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」）に基づいて、その目標や内容を踏まえ言語材料や言語活動をバランスよく出題している。なお、中学校第2学年までの内容となるようにしている。

- (例) ■ 外国語理解の能力 ・ 概要や要点を聞き取る力【聞くこと】
・ 自分が考えたことや感じたことを、その理由を交えて書くことができるよう必要な情報を読み取る力【読むこと】
- 外国語表現の能力 ・ 文のつながりなどに注意して書く力【書くこと】
・ 問答したり意見を述べたりする力【話すこと】

○課題等

主な特徴

【受容的な技能（聞くこと、読むこと）について】

話されたり書かれたりしている内容そのものを理解することは、おおむねできていると考えられる。一方で、その内容から目的・場面・状況に応じて、概要や要点をとらえることに課題がある。また、聞いたり読んだりした後に自分の考えや意見を示すことができるよう、話し手や書き手の意図をとらえることにも課題がある。

【発信的な技能（書くこと、話すこと）について】

書くことについては、基本的な語や文法事項等の知識の定着やそれらを活用することに課題がある。このため、与えられたテーマについてまとまりのある文章を書くときにおいても、自分の考えを相手に伝わる英語で表現することができていないと考えられる。

話すことについては、全体的に課題は多いが、特に情報や考えなどを即興でやり取りすることに課題がある。

書くこと、話すことのどちらにおいても、問われていることが分かれば、自分の考えなどをなんとか伝えようとする粘り強さや意欲が見られる。

聞くこと

- ◇ 日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることはできている。〔 ① 〕
- ◇ まとまりのある内容を聞き、概要や必要な情報をとらえることはできている。〔 ②, ③ 〕
- ◆ まとまりのある内容を聞き、適切に応じることができるよう、話し手の意図をとらえることに課題がある。〔 ④ 〕

読むこと

- ◇ 日常的な話題について、情報を正確に読み取ることはできている。〔 ⑤ 〕
- ◆ 社会的な話題について、まとまりのある文章を読み、書き手が最も伝えたいことなど大切な部分をとらえることに課題がある。〔 ⑦ 〕
- ◆ 社会的な話題について、読んだ後に自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを主体的にとらえることに課題がある。〔 ⑧ 〕

書くこと

- ◆ 語や文法事項等を正しく用いて、文を書くことに課題がある。〔 ⑨ (2) ②, (3) ①②③ 〕
- ◇◆ 書こうとする意欲は見られるものの、与えられたテーマについて考えを整理し、コミュニケーションに支障をきたすことなく内容を伝えることに課題がある。〔 ⑩ 〕

話すこと

- ◆ 情報や考えなどを即興でやり取りしたり、相手の発話の内容を踏まえて、それに関連した質問や意見を述べたりすることに課題がある。〔 話すこと② 〕
- ◇◆ 自分の意見を話そうとする意欲は感じられるものの、与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことに課題がある。〔 話すこと③ 〕

◇…比較的できている点 ◆…課題のある点 []内の記号は、問題番号

○指導改善のポイント

聞くこと

○ 聞いて把握した内容について、適切に応じる指導の充実

- ・ 話し手からの質問や指示、依頼、提案などを聞いて、その内容や意図を正しく理解し、適切な応答をする活動を繰り返し行っていくことが必要である。依頼や提案などの話し手からの働き掛けに対する反応の仕方は目的・場面・状況によって様々である。設定を工夫しながら活動を行わせ、どのような応答があり得るか考えさせることが大切である。日頃から、単に聞いた内容を理解することだけにとどめず、しっかりと聞く目的をもった指導を心がけたい。

読むこと

○ まとまりのある文章を読んで大切な部分を読み取る指導の充実

- ・ 社会的な話題に関する説明文などの大切な部分をとらえさせるには、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断する力を身に付けさせる必要がある。文章全体のおおまかな内容をとらえさせた上で、各段落に書かれた情報を比較検討して、最も伝えたい内容が書かれた英文を選ばせ、それについて意見交換させるなどの活動を工夫することが大切である。

○ 自分の考えを示すことができるよう、主体的に内容を読み取る指導の充実

- ・ 英文の意味を理解するだけでなく、内容に対する賛否や感想、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、話の内容や書き手の意見や意向を主体的にとらえて適切に応じる活動を行っていくことが必要である。教科書に書かれている内容を読み取るだけにとどめず、話の内容や書き手の意見、それらの伝え方などを批判的にとらえるような読み方を育て、領域間の統合的な言語活動に結び付けていくことが大切である。

書くこと

○ 考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く指導の充実

- ・ まとまりのある文章を書くためには、文と文の順序や相互の関連にも注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことができるようにする必要がある。そのためには、事実やテーマから想起される自分の考えや気持ちなどを整理したメモなどを基にして書き始めることに慣れさせるとともに、教科書の本文を使って文章の構成の特徴（トピックセンテンス—支持文—結論文）を意識させた上で、接続詞や副詞、代名詞などを用いる「言い換えの手法」等を指導していくことが大切である。

話すこと

○ 情報や考えなどを即興で伝え合う指導の充実

- ・ 不適切な間を置かずに相手と事実や意見、気持ちなどを即興で伝え合う力を身に付けさせる必要がある。そのためには、生徒が関心のある事柄を取り上げるなど、話しやすくなるようなトピック設定の工夫をする必要がある。また、話すための原稿を事前に用意して、その内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの準備時間を取ることなく伝え合う活動を行うことが大切である。さらに、互いに分からない点を尋ねたり確かめたりして対話を継続・発展させることを十分に意識して指導していくことが重要である。

知識及び技能

○ 言語材料の確実な定着

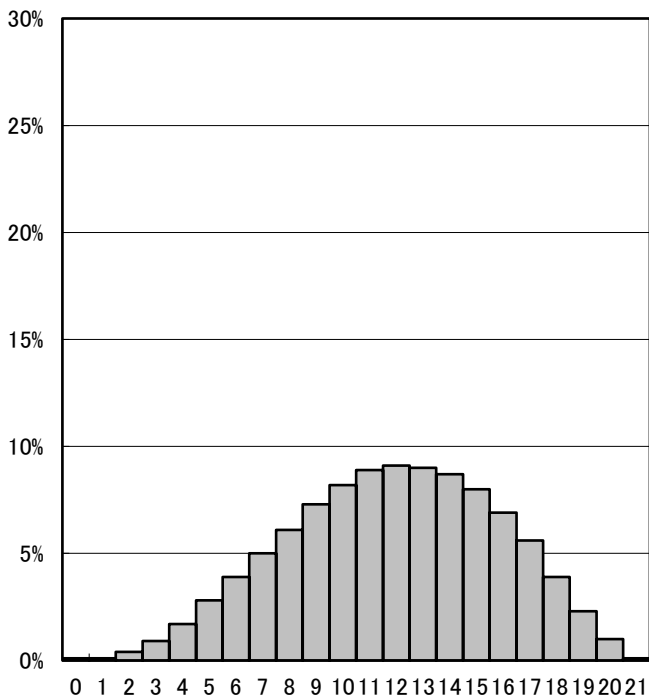
- ・ 言語材料の定着を図るためには、実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動を行うことが最も重要である。一方で、そのような活動を行うに当たり、それを支える言語材料についての理解や練習も十分に行っていく必要がある。発音やイントネーションなどの音声に関すること、語句や文の構造、文法事項などに関する指導をなおざりにすることなく、「言語活動」と「理解や練習のための指導」の両者のバランス及び実施順序等を工夫した実践を行うことが大切である。

(2) 集計結果 (正答等の状況)

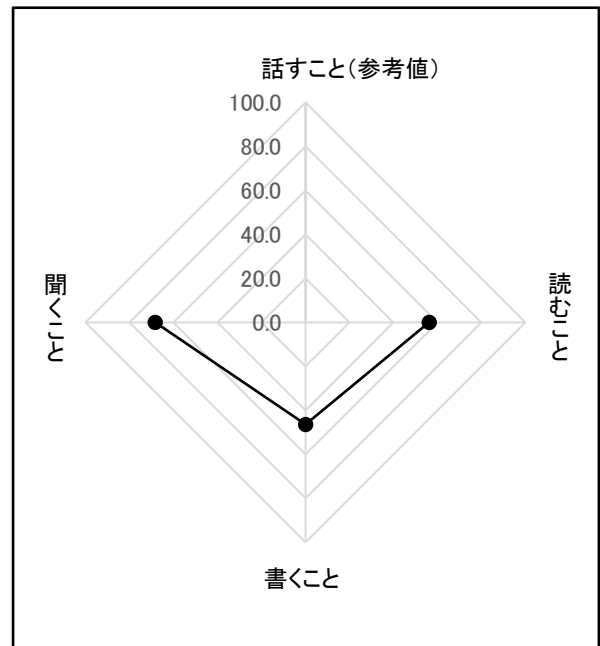
【英語】●聞くこと, 読むこと, 書くこと

生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
977,250 人	11.9 問/21 問	56.5%	12.0 問	4.0	12 問

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 生徒の割合)



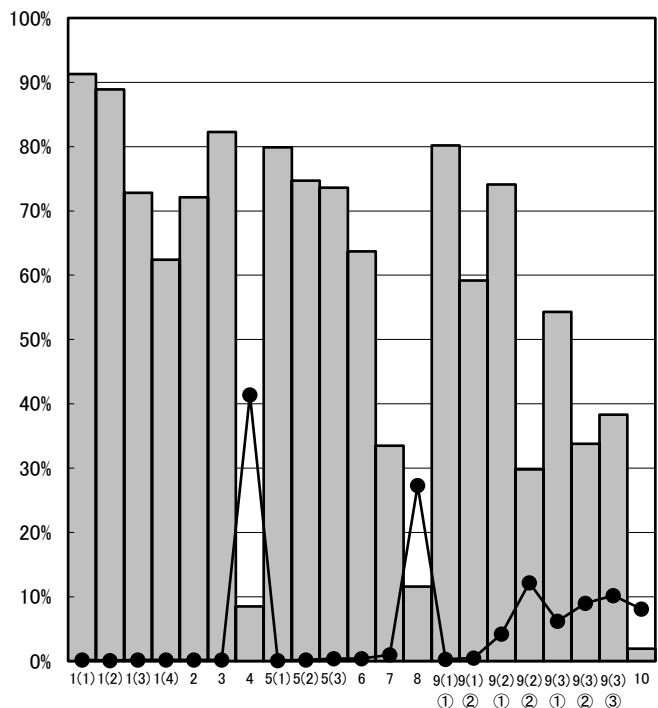
学習指導要領の領域の平均正答率



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域	聞くこと	7	68.3
	話すこと (参考値)		
	読むこと	6	56.2
	書くこと	8	46.4
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0	
	外国語表現の能力	1	1.9
	外国語理解の能力	6	45.3
	言語や文化についての知識・理解	14	65.2
問題形式	選択式	13	71.9
	短答式	5	46.0
	記述式	3	7.3

問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」
(横軸: 問題番号, 縦軸: 生徒の割合)



問題別集計結果

●聞くこと、読むこと、書くこと

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式	正答率(%)	無解答率(%)			
			聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	「知識」に関する問題				「活用」に関する問題	選択式	短答式
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)						○	○		○			91.3	0.2
1 (2)	教室英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する	教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)						○	○		○			88.9	0.1
1 (3)	外国人の先生と女子生徒の会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)						○	○		○			72.8	0.2
1 (4)	家での会話を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる	(7) (4)						○	○		○			62.4	0.2
2	イギリスと日本の類似点や相違点についてのスピーチを聞いて、話の展開に合わせて示す絵を並び替える	まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる	(4)						○			○	○		72.1	0.2
3	天気予報を聞いて、ピクニックに行くのに最も適する曜日を選択する	まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる	(4)						○			○	○		82.3	0.2
4	来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	(4)						○				○		8.5	41.4
5 (1)	ある場所を説明する英文を読んで、空所に入る語句として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(4)				○	○		○			79.9	0.1
5 (2)	ある状況を描写する英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(4)				○	○		○			74.7	0.2
5 (3)	月ごとの平均気温を表したグラフを見て、その内容を正しく表している英文を選択する	日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる			(4)				○	○		○			73.6	0.4
6	発表活動のためにまとめられた100円ショップについての文章を読んで、話の流れを示すスライドとして最も適切なものを選択する	まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる			(4)				○			○	○		63.7	0.4
7	チンパンジーに関する説明文とその前後にある対話を読んで、書き手が最も伝えたい内容を選択する	まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる			(4)				○			○	○		33.5	1.0
8	食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる			(4)				○				○		11.6	27.3
9 (1) ①	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる			(7) (4)				○	○		○			80.2	0.3
9 (1) ②	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する	文の中で適切に接続詞を用いることができる			(7) (4)				○	○		○			59.2	0.5
9 (2) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる			(7) (4)				○	○			○		74.1	4.2
9 (2) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりなどして、会話が成り立つように英文を書く	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる			(7) (4)				○	○			○		29.8	12.2
9 (3) ①	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる			(7) (4)				○	○			○		54.3	6.2
9 (3) ②	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる			(7) (4)				○	○			○		33.8	9.0
9 (3) ③	与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる			(7) (4)				○	○			○		38.3	10.2
10	学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く	与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる			(4)				○				○		1.9	8.1

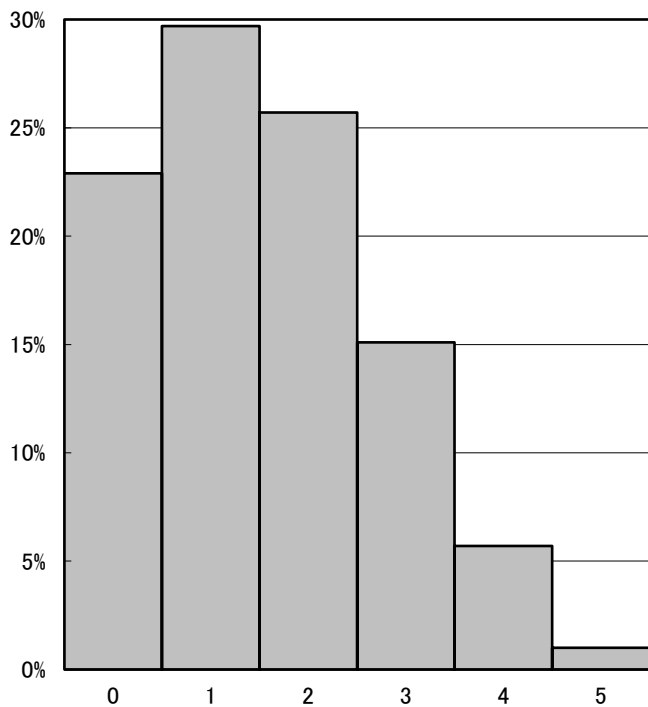
(2) 集計結果 (正答等の状況)

【英語】●話すこと

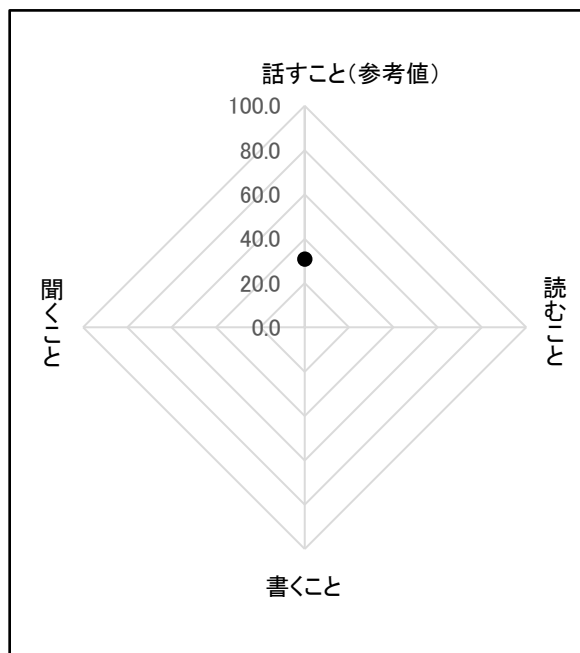
生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
917,978人※	1.5問/5問	30.8%	1.0問	1.2	1問

※ 中学校の英語「話すこと」調査にかかる特例的な措置 (P.3 参照) 等により、対象生徒数は「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計と異なる。

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 生徒の割合)



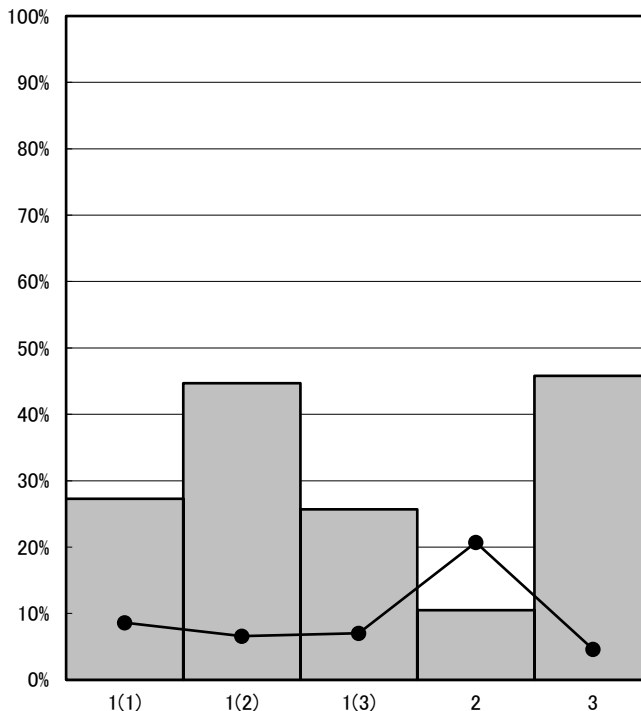
学習指導要領の領域の平均正答率



分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域	聞くこと		
	話すこと (参考値)	5	30.8
	読むこと		
	書くこと		
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0	
	外国語表現の能力	2	28.1
	外国語理解の能力	0	
	言語や文化についての知識・理解	3	32.6
問題形式	選択式	0	
	短答式/口述式	3	32.6
	記述式/口述式	2	28.1

問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」
(横軸: 問題番号, 縦軸: 生徒の割合)



問題別集計結果

●話すこと

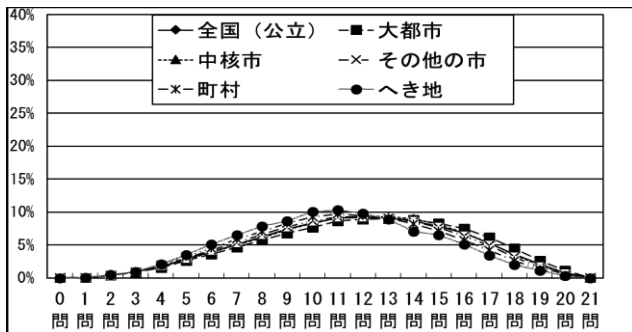
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				(参考) 従来の区分			問題形式	正答率(%)	無解答率(%)	
			聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	「知識」に関する問題	「活用」に関する問題	選択式				短答式／口述式
1 (1)	カレンダーを見て、少女の誕生日を答える	月日に関する基本的な表現を理解して、応答することができる		(7) (4)							○	○			○	27.3	8.6
1 (2)	テレビを見ている2人の子供の絵を見て、何をしているのか答える	基本的な文法（現在進行形）を理解して、応答することができる		(7) (4)							○	○			○	44.7	6.6
1 (3)	バスで登校する少年の絵を見て、交通手段を答える	適切に強勢を置き、交通手段に関する基本的な表現を理解して、応答することができる		(7) (4)							○	○			○	25.7	7.0
2	ユイコとアラン先生のやり取りを聞き、その内容を踏まえて会話が続いていくように、即興で質問をする	聞いて把握した内容について、やり取りすることができる		(4)					○					○	○	10.5	20.7
3	海外のテレビ局の要望に応じて、自分の将来の夢、またはやってみいたいこと等を話す	与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができる		(4)					○					○	○	45.8	4.6

(3) 地域の規模等の状況

○ 平均正答数，平均正答率，中央値，標準偏差を見ると，地域の規模等（公立：大都市，中核市，その他の市，町村，へき地）による大きな差は見られない。

[英語]

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：生徒の割合）



	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
全国（公立）	938,888	11.8 / 21	56.0	12.0	3.9
大都市	230,076	12.1 / 21	57.6	12.0	4.0
中核市	164,083	11.8 / 21	56.1	12.0	3.9
その他の市	449,882	11.6 / 21	55.1	12.0	3.9
町村	84,981	11.3 / 21	53.7	11.0	3.8
へき地	12,541	10.9 / 21	52.1	11.0	3.7

※大都市（政令指定都市及び東京 23 区），中核市，その他の市，町村の値は，当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する生徒の調査結果（正答数）を集計したものである（都道府県立学校は含まない）。

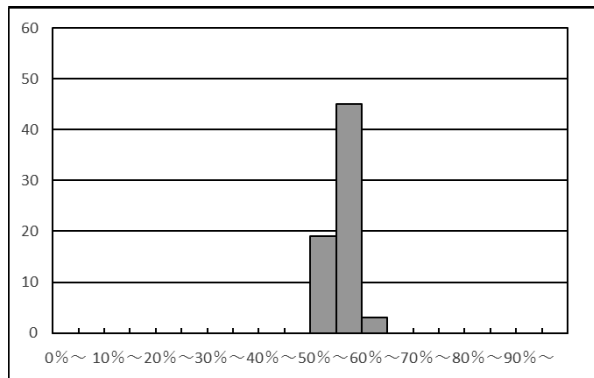
※へき地の値は，へき地教育振興法及び各都道府県の条例（規則）によって指定された学校に在籍する生徒の調査結果を集計したものである。大都市，中核市，その他の市，町村の値に重複する。

(4) 都道府県・指定都市の状況

○ 各都道府県・指定都市（公立）の状況については，平均正答率を見ると，全ての都道府県・指定都市が平均正答率の±10%の範囲内にあり，大きな差は見られない。

[英語]

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：都道府県・指定都市数）



全国（公立）の平均正答率	全都道府県市（公立）中，最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市（公立）中，最低平均正答率【全国との差】
56%	62% 【+6%】	50% 【-6%】

※都道府県は指定都市を除く。全国（公立）の平均正答率は整数値で表示している。

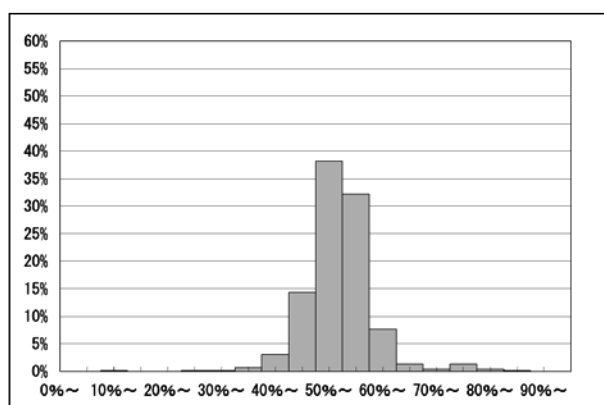
(5) 教育委員会の状況

○ 各教育委員会の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、全体としてはそれほど大きなばらつきは見られない。

[英語]

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率 (%)	教育委員会の中央値 (%)	教育委員会の標準偏差
1,791	11.4 / 21	54.4	54.1	6.1

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：教育委員会の割合）



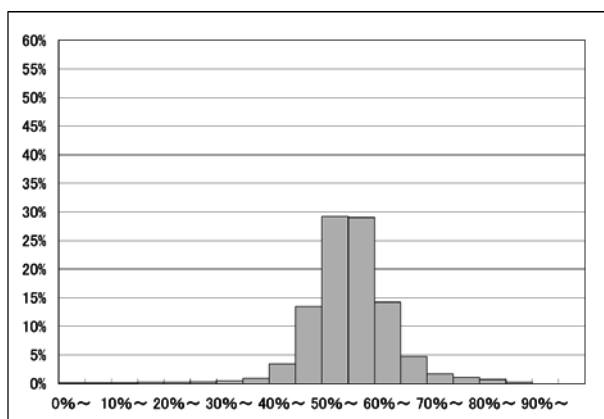
(6) 学校の状況

○ 各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、全体としてはそれほど大きなばらつきは見られない。

[英語]

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率 (%)	学校の中央値 (%)	学校の標準偏差
9,936	11.6 / 21	55.3	55.2	8.1

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率，縦軸：学校の割合）

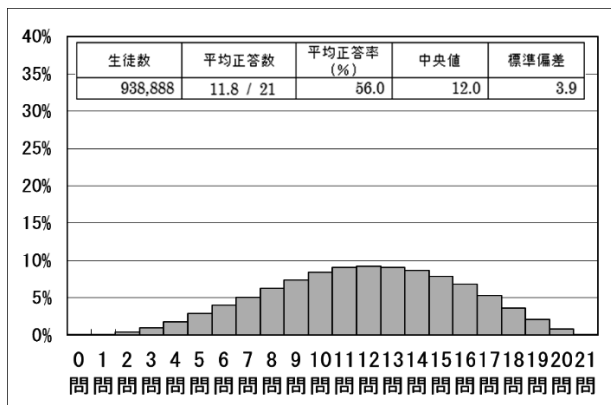


(7) 国・公・私立学校の状況

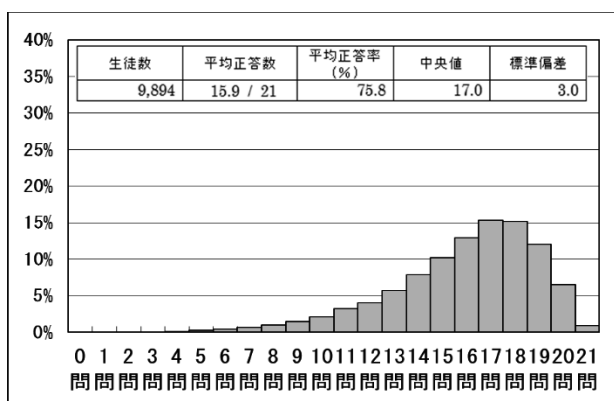
○ 国立・私立学校は一般的に入学者選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均正答数について見ると、国立・私立学校は、公立学校を上回っている。

[英語]

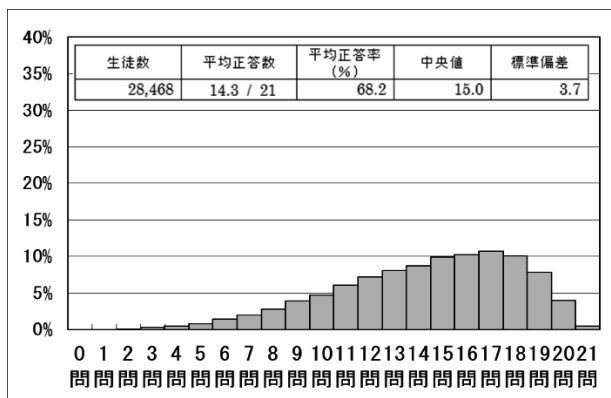
<公立> 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：生徒の割合）



<国立> 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：生徒の割合）



<私立> 正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：生徒の割合）



3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

(1) 「3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方

調査問題について、出題の趣旨、学習指導要領における領域・内容、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導に当たってなどを記述しています。

問題画像
調査問題を縮小して掲載しています。

出題の趣旨
問題ごとに、出題の意図、把握しようとする力、場面設定などを記述しています。

趣旨
問題ごとの出題の意図、把握しようとする力などを記述しています。
■学習指導要領における領域・内容
調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実を図る際に参考となるように、関係する学習指導要領における領域・内容を示しています。

1. 解答類型と反応率
解答類型ごとの反応率、正答の条件を示しています。(詳細は下欄参照)

教科名○

問 題 画 像

出題の趣旨

設問○
趣旨

■学習指導要領における領域・内容
(第○学年)

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型	反 応 率 (%)	正 答
1	○		◎
2			
3			
4			
99	上記以外の解答		
0	無解答		

解答類型と反応率

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。正誤だけではなく、児童生徒一人一人の解答の状況（どこでつまづいているのか）等に着目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

<正答>

「◎」… 解答として求める条件を全て満たしている正答
 「○」… 問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

※ 反応率は小数第二位を四捨五入したものであるため、「◎」と「○」の反応率の合計と正答率が一致しない場合や合計が100%にならない場合があります。

※ 「話すこと」調査については、データ欠損の解答類型を設けていないため、反応率の合計が100%にはなりません。

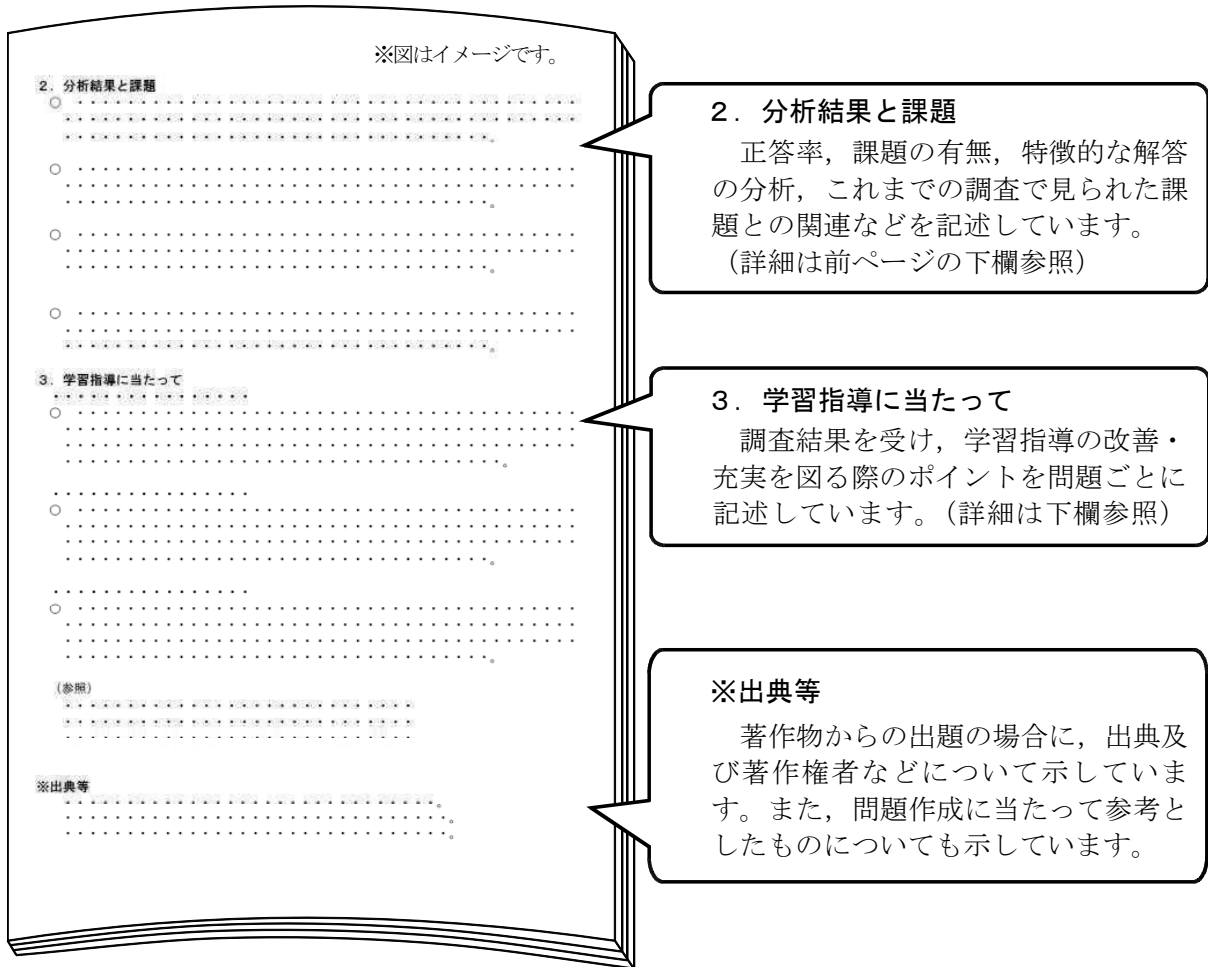
分析結果と課題

問題ごとに、以下の内容について記述しています。

- ・ 正答率、課題の有無
- ・ 特徴的な解答について、反応率、解答例、課題の詳細
- ・ これまでの調査で見られた課題との関連

など

-18-



学習指導に当たって

調査問題に関係する領域・内容について、各学年での日々の学習指導の改善・充実を図る際に御活用ください。また、本書のほか、授業の改善・充実を図る際の参考となるように、授業のアイディアの一例を示すものとして「授業アイディア例」(本年8月下旬公表予定)を作成しますので、本書及び「解説資料」(本年4月公表)と併せて御活用ください。

3. 教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

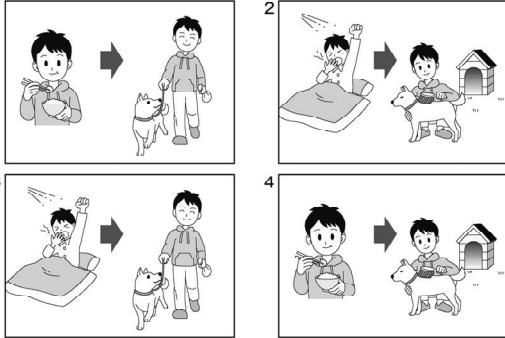
(2) 中学校 英語

●聞くこと，読むこと，書くこと
英語1 情報を正確に聞き取る

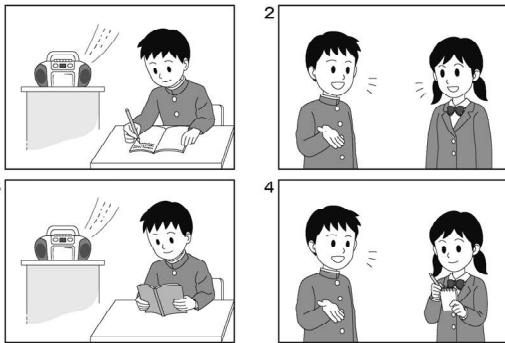
1 (放送問題)

話される英語を聞いて，その内容を最も適切に表している絵を，それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

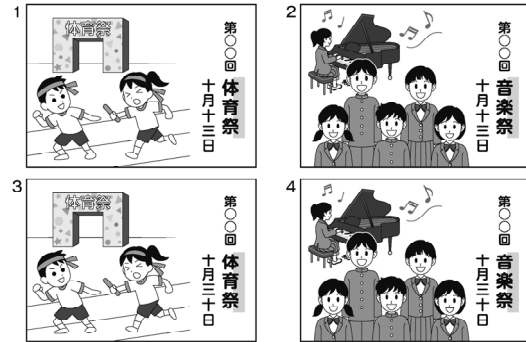
(1)



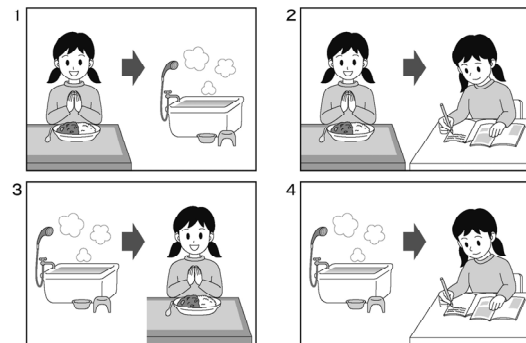
(2)



(3) <外国人の先生と女子生徒の会話>



(4) <家での会話>



(スクリプト)

(1) I get up at six every Sunday and take my dog for a walk.

(2) Listen to the CD and write your ideas in your notebook.

(3) A: This is a nice poster. What's it for, Nanami?

B: It's for our school music festival.

A: When is it?

B: It's on October thirteenth.

(4) A: I'm so hungry.

B: Today's dinner is curry and rice. It will take about thirty minutes to cook. Do you have any homework today?

A: No, I don't.

B: Then take a bath before dinner.

A: OK.

出題の趣旨

英語を聞いて情報の詳細を理解することができるかどうかをみる。

英語を聞いて情報の詳細を理解するためには、音声、語、文法事項等の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる程度に高めておかなければならない。本問は、それらの知識や技能を身に付けているかどうかを把握することをねらいとしている。

設問（１）は、語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取る問題である。自然な英語の発話では、一語一語を切り離して発音せず、複数の語を連結して発音することが多い。英語の聞き取りには、この音変化に慣れておくことが不可欠であることから出題した。

設問（２）は、教室英語を聞き取る問題である。教室でよく使われる表現を聞いて、情報を正確に理解することができるかどうかを把握するために出題した。

設問（３）、（４）は、日常的な話題について、情報を正確に聞き取る問題である。生徒にとって身近な学校や家庭生活といった話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、情報を正確に理解することができるかどうかを把握するために出題した。

設問（１）

趣旨

語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ア 聞くこと

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。
- (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
①	(1)	1 1 と解答しているもの	2.4	
		2 2 と解答しているもの	5.6	
		3 3 と解答しているもの	91.3	◎
		4 4 と解答しているもの	0.6	
		99 上記以外の解答	0.0	
		0 無解答	0.2	

2. 分析結果と課題

- 語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができている。

3. 学習指導に当たって

語と語の連結による音変化に慣れるようにする

- 英語を発話する際に、語と語を連結するなど音を変化させて発話することがよくある。この音変化は英語の聞き取りを難しくする要因の一つであり、情報を正確に聞き取るためにはこれらの音変化に慣れておく必要がある。指導に当たっては、自然な速さの音変化を含む英語に数多く触れさせることが重要である。何度も聞くだけでなく、実際に自分で発音できるようにして、英語の音声の特徴に慣れさせていきたい。

設問 (2)

趣旨

教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ア 聞くこと

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。
- (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
①	(2) 1 1 と解答しているもの	88.9	◎
	2 2 と解答しているもの	2.0	
	3 3 と解答しているもの	8.3	
	4 4 と解答しているもの	0.6	
	99 上記以外の解答	0.0	
	0 無解答	0.1	

2. 分析結果と課題

- 教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができている。

3. 学習指導に当たって

教室英語を聞いて、聞き取ることができるようにする

- 教室英語の使用は、授業全体を英語を使った実際のコミュニケーションの場面とし、生徒が英語に触れる機会の充実を図るためにも大変重要であるが、小学校外国語活動からの積み重ねにより、一定の定着が図られつつあると考えられる。指導に当たっては、小学校から慣れ親しんできた教室英語を引き続き使用するとともに、中学校段階にふさわしい教室英語の表現を用いたり、発話の速度や指示の出し方（不必要に何度も繰り返さない）などの工夫をしたりして、より自然な口調で話される英語での聞き取りに近づけていくことが大切である。

設問（3）**趣旨**

日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ア 聞くこと

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。
 (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
①	(3)	1	1 と解答しているもの	1.1	
		2	2 と解答しているもの	72.8	◎
		3	3 と解答しているもの	2.1	
		4	4 と解答しているもの	23.9	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.2	

2. 分析結果と課題

- 解答類型4に該当する生徒は、thirteenthをthirtiethと聞き違えていると考えられる。

設問（4）**趣旨**

日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ア 聞くこと

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。
 (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
①	(4)	1	1 と解答しているもの	24.5	
		2	2 と解答しているもの	10.9	
		3	3 と解答しているもの	62.4	◎
		4	4 と解答しているもの	2.0	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.2	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1に該当する生徒は、before dinner という句から時間の前後関係を把握できず、情報を正確に聞き取ることができていないと考えられる。
- 解答類型2に該当する生徒は、take a bath before dinner という情報を把握できず、dinner, homework という聞こえてきた情報の順序で内容をとらえていると考えられる。

3. 学習指導に当たって〔対応設問：(3)(4)〕

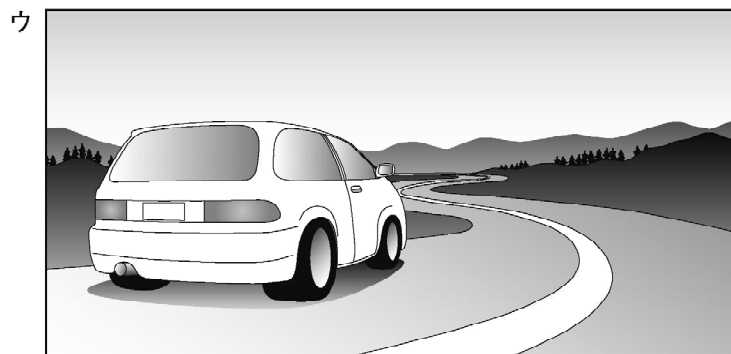
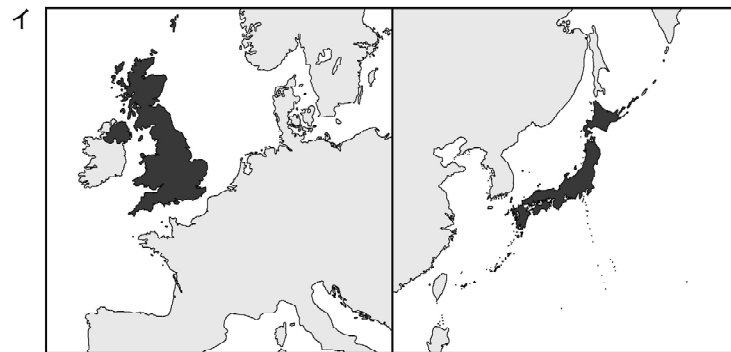
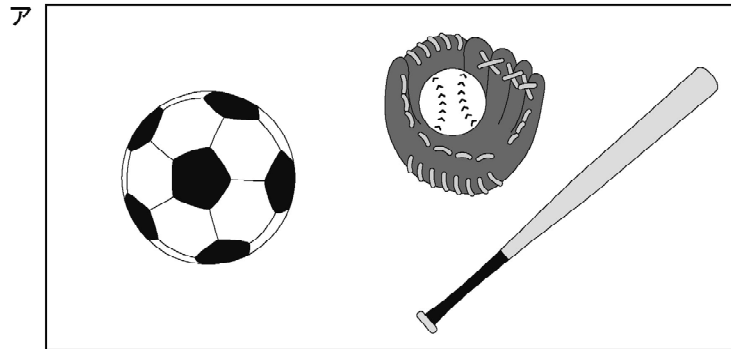
日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができるようにする

- 情報を正確に聞き取るためには、英語の音声の特徴を踏まえて、事実や出来事などについての必要な情報を正しく理解する必要がある。指導に当たっては、教師が自然な口調の英語を用いるようにして話すなど、日常的に「聞くこと」を通して理解する活動を繰り返し行っていく必要がある。
 - 具体的な指導としては、以下のような活動が考えられる。
 - ・ 数字や曜日、月などの発音の基本的な知識を身に付けて、お互いの誕生日を聞いたり、行事について話し合ったりする活動
 - ・ 一日の行動や旅行の計画などを聞き、before A, after B 等の時間的な順番を表す句を正しくとらえ、時間の前後関係を理解する活動
- これらの活動を一時的なものにせず、機会をとらえて日頃の授業の中で繰り返し行っていくことが大切である。

英語2 話の概要を聞き取る

2 (放送問題)

英語の授業で、ある生徒が2つの国について調べたことを、次の3枚の絵を見せながら発表します。生徒はア、イ、ウをどのような順番で見せるでしょうか。正しい順番になるように、1つずつ絵を選びなさい。



(スクリプト)

What countries are these? Yes, they are the U.K. and Japan. Both countries are the same in some ways. They are island countries, and cars run on the left. The two countries are different in some ways, too. In Japan, baseball is popular, but in the U.K., it isn't. Football is more popular than baseball. I think knowing about the life and culture of other countries is interesting. I want to learn more about them in the future.

出題の趣旨

まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができるかどうかをみる。

本問は、短いスピーチを聞き、その話の概要をとらえる問題である。「話の概要をとらえる」とは、内容に一貫性のある英語を最初から最後まで聞き、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく、全体を通してどのような話のあらましになっているのかをとらえることを意味する。コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、そうした聞き取り方を身に付けておく必要があることから出題した。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ア 聞くこと

(ウ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
②	1 ア → イ → ウ と解答しているもの	0.2	
	2 ア → ウ → イ と解答しているもの	0.3	
	3 イ → ア → ウ と解答しているもの	21.5	
	4 イ → ウ → ア と解答しているもの	72.1	◎
	5 ウ → ア → イ と解答しているもの	2.3	
	6 ウ → イ → ア と解答しているもの	2.3	
	99 上記以外の解答	1.1	
	0 無解答	0.2	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3に該当する生徒は、2つの国について2つの共通点と1つの相違点が述べられているという話の構成を理解できていないか、cars run on the left という英語を聞き取ることができていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって

まとまりのある英語を聞いて、話の概要を聞き取ることができるようにする

- まとまりのある英語を聞いて話の概要をとらえるためには、話の特定の部分にとらわれることなく、全体像をつかみ取るような聞き取りをする必要がある。場面設定を工夫しながら、聞いた後におおまかな内容を話して説明するなど、何のために聞くのか目的をはっきりとさせた上で、聞き取りのためのポイントを示したり、聞き取りのポイント自体を生徒自身に考えさせたりすることが大切である。

具体的な指導としては、以下のような活動が考えられる。

- ・ 話の展開をとらえるキーワード（比較・対照を表す語など）に着目して聞く活動
- ・ 5 W 1 H に着目して聞く活動
- ・ 話の展開を時間軸に沿って整理する活動
- ・ 話の展開を簡単なイラストで表現する活動
- ・ 話の内容を示す絵を、展開に沿って並べ替える活動

英語③ 聞き手として必要な情報を聞き取る

③ (放送問題)

アメリカでホームステイ中のあなたは、天気予報を聞きながらピクニックに行く計画を立てています。ピクニックに行くのに最も適しているのは、何曜日でしょうか。下の1から4までの中から1つ選びなさい。

- 1 Thursday
- 2 Friday
- 3 Saturday
- 4 Sunday

(スクリプト)

Good morning. It's Thursday, April eleventh. Here's the weather. It was nice and warm yesterday, but not today. It will be cloudy and cold in the morning, and sometimes rainy in the afternoon. Tomorrow will be sunny but much colder. The weather will be nice on Saturday, so it will be a good day to go outside and enjoy the sun. On Sunday, it will be rainy again.

出題の趣旨

まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができるかどうかをみる。

本問は、天気予報を聞き、聞き手として必要な情報をとらえる問題である。「必要な情報をとらえる」とは、複数の情報が含まれるまとまりのある内容の英語を聞き、話されることの全てではなく、聞き手として目的に応じて知りたいことや、欲しい情報などを聞き取ることを意味する。コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、そうした聞き取り方を身に付けておく必要があることから出題した。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ア 聞くこと

(オ) まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
③	1 1 と解答しているもの	3.2	
	2 2 と解答しているもの	6.1	
	3 3 と解答しているもの	82.3	◎
	4 4 と解答しているもの	8.2	
	99 上記以外の解答	0.0	
	0 無解答	0.2	

2. 分析結果と課題

- まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を聞き取る力が身に付いている。

3. 学習指導に当たって

目的をもって英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるようにする

- 聞き手として必要な情報を聞き取るためには、話されることの全てを詳細に聞き取ろうとするのではなく、聞きたい情報をはっきりさせて、それに関連する英語表現に注意を払って聞き取る力を身に付けさせることが大切である。

具体的な指導としては、以下のような手順の言語活動が考えられる。

- ① 場面設定を理解する（店、公共交通機関など）
- ② どういう情報が必要な状況であるか考える
- ③ 自分が必要とする情報と関連する語句に着目して、目的をもって聞き取る

英語4 聞いた内容について適切に応じる

4 (放送問題)

英語の授業で、来日予定の留学生からの音声メッセージを聞くところです。メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

(スクリプト)

Hello. I'm Nick. I'm looking forward to meeting you. I'm going to stay in your country for two weeks. I hear that there are a lot of club activities in Japanese schools. I want to try some! Which club activities can I try? Can you give me some advice? I'm waiting for your answer. Thank you.

出題の趣旨

聞いて把握した内容について、適切に応じることができるかどうかをみる。

本問は、聞いたことを基にして書くという技能統合の問題である。話し手からの依頼、提案などを聞き、適切な応答を相手に返すことで、その内容や意図を正しく理解しているかどうかを把握するために出題した。

現行学習指導要領の改訂の基本方針の一つとして、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実することが挙げられており、改訂によって増加した授業時数はそのような指導に充てることで改善を図ることになっている。

「聞くこと」については、「質問や依頼などを聞いて適切に応じること」が指導事項として示されており、相手の質問や指示、依頼、提案などを聞いて、単にその意図を理解するだけでなく、それに対して適切に応答することができるようになることが求められている。本問はそうした力を問う問題である。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ア 聞くこと

(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
4	1 ニックができる部活動についてのアドバイスを、十分理解できる英語（大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるものを含む）で解答しているもの (正答例) ・ You can try the judo club. ・ why don't you join the music club?	4.0	◎
	2 ニックができる部活動についてのアドバイスを、おおむね理解できる英語（書き手の考えを伝える上で、大きな支障となる語や文法事項等の誤りがないもの）で解答しているもの (正答例) ・ You can trying judo. (動詞の活用形に誤りがある) ・ Why don't join the music club? (主語が欠落している) ・ Let's play basketball. (つづりに誤りがある) ・ The art club. (語や句で解答している)	4.4	○
	3 ニックができる部活動についてのアドバイスになっていないもの	31.3	
	4 書き手の考えを伝える上で、大きな支障となる語や文法事項等の誤りがあるため、伝えたい内容が理解できないもの	15.7	
	99 上記以外の解答	3.1	
	0 無解答	41.4	

(1) 場面・状況

来日予定の留学生からの「日本の学校の部活動に参加してみたいので、何かアドバイスをしてほしい」という音声メッセージを聞いて応答する場面である。

(2) 採点の視点

<p>(思考・判断・表現) 部活動の内容をアドバイスの形で応答する</p> <p>(視点 A) 具体的な部活動についてのアドバイスになっている (視点 B) 理解できる英語で伝えたい内容が書かれている</p>
--

- 本問は「外国語理解の能力」を問う問題である。応答した内容や表現から判断して「英語をどれだけ聞くことができているか」ということに評価の重点を置いている。具体的には、ある学校へ来日予定の留学生からのメッセージにある“Which club activities can I try?”を聞き、「あなたの学校の中でどの部活動がよいと思うか、アドバイスをお願いします」という話し手の依頼に正対していることが正答の鍵となる。そのため、具体的な部活動についてのアドバイスになっていて（視点 A）、理解できる英語で伝えたい内容が書かれていること（視点 B）を正答の必須条件とした。よって、「日本に来てから考えればよい」や「先生に尋ねるとよい」というような単なる部活動の選び方に関わる解答は誤答とした。正答となり得るためには、具体的な「部活動の名前」や「部活動で行う動作」を書いているなど、話し手の求めに応じるために思考したことが分かるように記述する必要がある。

なお、本問は、「外国語理解の能力」に評価の重点を置いているため、採点に当たっては、「外国語表現の能力」を問う問題（大問10）とは差別化を図っている。具体的には、名詞（句）のみや主語の欠落のある文で解答するなど、考えを伝える上で大きな支障となるには至らないと判断できるものについては、正答として許容している点が挙げられる。

- 場面、状況に応じて多様なアドバイスが想定されるが、上記の点と具体的な採点の視点を踏まえながら解答類型を設定している。

2. 分析結果と課題

- 正答率は8.5%である。聞いて把握した内容について、適切に応じることに課題がある。視点 A を正しくとらえられておらず、「日本の文化を楽しんでください」、「日本では、寿司が一番人気です」等の解答が非常に多かった。これは、「来日予定」という問題の指示文で挙げられた漠然とした場面から類推や判断をして解答した生徒、または英語をほとんど聞き取ることができなかった生徒が多いことを示していると考えられる。
- 解答類型1の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- You can play tennis.
- If you like music, I think that you should join our school band club.
- Baseball is popular. I think you can try playing baseball with us.
- How about playing volleyball?

このように解答した生徒は、ニックからのメッセージの内容を正しく理解した上で、「提案、勧誘、依頼」を表す文や you を主語とした「可能、義務、許可」を表す文等を用いて、自分の考えを書いて伝えることができている。

- 解答類型2の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- You can try table tennis club.
- I think go to baseball club because it's fun.
- I think soccer club is the best.
- Playing basketball.

このように解答した生徒は、主語の欠落や冠詞、つづりの誤りなど考えを伝える上で大きな支障とならない程度の語や文法事項等の誤りが見られるものの、ニックからのメッセージの内容を正しく理解し、自分の考えを書いて伝えることはできている。

- 解答類型3の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- Enjoy Japanese culture.
- Sushi is the most famous in Japan.
- How about speaking Japanese?
- You go to school by bike.
- You may go to Tokyo.

このように解答した生徒は、ニックからのメッセージの内容を聞き取ることができておらず、部活動についてのアドバイスを求められていることが理解できていないと考えられる。

- 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- You should slow reading.
- You want to can speak Japanese.
- You must many famous place in Japan.
- I think that good Marason.
- You can soccer.

このように解答した生徒は、語順やつづりの誤り、動詞の欠落など、考えを伝える上で大きな支障となる語や文法事項等の誤りがあり、ニックからのメッセージの内容を正しく理解できていないか、もしくはアドバイスが思い浮かんでも、それを相手に伝わるような英語で表現することができていないと考えられる。

- 解答類型0に該当する生徒は、英語を聞き取ることができなかった、もしくは、書きたい内容があっても英語が思い浮かばず表現できなかった等の理由が考えられる。これは、自然な口調で話される英語を聞いて適切に応じる活動を、日頃の授業であまり行っていないことが要因の一つとして考えられる。

3. 学習指導に当たって

聞くだけにとどめずに、把握した内容について適切に応じることができるようにする

- 依頼や提案などの話し手からの働き掛けに対する反応の仕方は、場面や状況、聞き手によって様々である。指導に当たっては、「聞くこと」が目的をもって行う能動的な活動であることを念頭に置き、ただ聞いて理解するだけの活動にしないことが大切である。そのためには、場面などの設定を工夫しながら、話し手がどのような人で、何を求めているか、この場面においてどのような応答がふさわしいのか考えさせ、内容を踏まえて自分の考えや意見を表現させることが重要である。また、日頃から生徒と英語でのやり取りをする中で、実際に聞いて応じる活動を積み重ね、体験的に身に付けさせていくことも必要である。

聞くこと全体の指導に当たって

【普段の聞き取りで意識したいこと】

今回の調査結果から、日常的で簡単な事柄について内容そのものを聞き取る力は身に付いてきていると考えられます。このように高まってきている力を更に伸ばしていくためには、どのようにしていけばよいでしょうか。

まず、普段の授業を自然な英語の使用場面に近づけていくことが大切です。生徒に英語を聞かせる際、当たり前のように2回聞かせたり、通常よりもゆっくりとした英語を聞かせたりしていることはないでしょうか。今回の調査では、聞く場面をより日常生活に近づけるために、自然な口調で話される英語を1回だけ放送しました。日常の中で同じことが2回繰り返されることはほとんどなく、1回だけ聞いて理解したり応じたりすることが自然です。そのことを教師が普段の授業から意識して指導することが大切です。また、2回繰り返す場合も、2回目は違う聞き取りの視点を示したり、要点だけを伝えたりするなどの工夫をすることも大切です。さらに、生徒が英語の音変化やリズム等に慣れることができるよう発話の速度についても留意し、自然な口調で話される英語に近づけていきましょう。

次に、生徒自身が分からないこと、曖昧なことをそのままにせず、聞き返す力を付けることが大切です。1回聞いて分からなければ“Could you repeat that?”と依頼したり、聞き取ることができなかった部分を質問したりするなど、主体的に学習に向かう力を生徒に身に付けさせましょう。

【「聞くこと」と「書くこと」の統合的な活動から見えるもの】

複数の技能を統合した言語活動に取り組む際に、参考になるとと思われる「中学校学習指導要領実施状況調査」*の結果分析の一つをここに示したいと思います。

「まとまりのある英語を聞き、その内容について自分の考えや気持ちを英語で書く問題」の調査結果とアンケートの相関関係から、次のことが分かりました。【(1)「この問題の英文を聞いて、どのくらい内容が分かりましたか】という質問に対して、「よく分かった」、「どちらかと言えば分かった」という肯定的な回答をした生徒の割合は51.8%であり、そのうち、通過した生徒の割合は75.9%でした。この問題の通過率が63.2%であることを考えると、英語を聞いて理解できた生徒の多くは、その内容を基に英語で書くことができたと言えます。

また、【(2)「この問題を解答したときのあなたの状況に最も近いものはどれですか】という質問では、英文を聞いて「書く内容は思い浮かんだが、英語が分からなかった」という回答の割合が40.6%、「書く内容が思い浮かばなかった」という回答の割合が26.2%でした。このことから、聞いた内容が分かっても英語で書く段階でつまづいている生徒が多いことが分かります。

「聞くこと」ができなかったために「書くこと」ができなかったのか、「聞くこと」はできていたが「書くこと」ができなかったのかを見極めることは、その後の指導計画を立てたり、活動の評価を実施したりする上で大変重要な視点となります。

今回の調査において、大問4の正答率は大変低い結果になりましたが、自校の生徒の実態を是非この視点で分析していただきたいと思います。

* 「平成25年度中学校学習指導要領実施状況調査」(全国1,363校 延べ170,214人の生徒を対象に実施)

なお、この報告書は、http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shido_h25/index.htmにて公開しています。



英語 5 情報を正確に読み取る

5

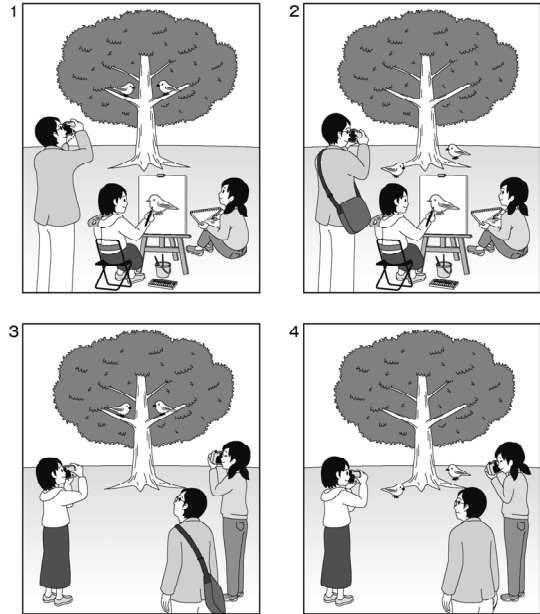
(1) 次の英文を読んで、() 内に入る最も適切な語(句)を、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

People go to () when they want to borrow books.
You can read books or study there.

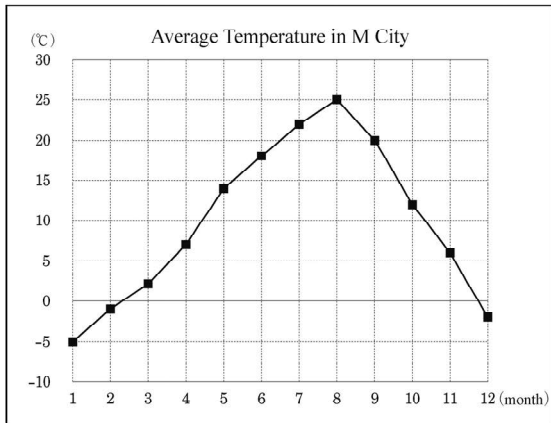
- 1 hospitals 2 libraries 3 book stores 4 restaurants

(2) 次の英文を読んで、その内容を最も適切に表している絵を、下の1から4までの中から1つ選びなさい。

I went to a park yesterday. I saw two beautiful birds in the tree. There were three people around the tree. Two girls were taking pictures. A man with a bag was just watching the birds.



(3) 次のグラフは、M市の月ごとの平均気温(average temperature)を表しています。このグラフから読み取れることを正しく表している英文を、下の1から4までの中から1つ選びなさい。



- 1 It is colder than 0°C in February and hotter than 20°C in June.
- 2 October is not warmer than April.
- 3 It is hotter than 25°C for three months.
- 4 It is the hottest in August and the coldest in January.

出題の趣旨

英語を読んで情報の詳細を理解することができるかどうかをみる。

英語を読んで情報の詳細を理解するためには、語や文法事項等の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる程度に高めておかなければならない。本問は、それらの知識や技能を身に付けているかどうかを把握することをねらいとしている。

設問（１）は、libraries を説明する英文を正確に読み取る問題である。文脈の中で英語の意味を推測しながら読むことができるかどうかを把握するために出題した。

設問（２）は、ある状況を描写している英文を正確に読み取る問題である。動詞や前置詞などといった、この文章を読み取る際のキーワードとなる語句を正しく理解することができるかどうかを把握するために出題した。

設問（３）は、気温の変化を表すグラフを見て、グラフの内容を正しく表している英文を選ぶ問題である。月名や比較を表す英文を正確に読み取るかどうかを把握するために出題した。

設問（１）

趣旨

日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ウ 読むこと

(イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
5	(1) 1	1 と解答しているもの	1.7	
	2	2 と解答しているもの	79.9	◎
	3	3 と解答しているもの	16.9	
	4	4 と解答しているもの	1.4	
	99	上記以外の解答	0.0	
	0	無解答	0.1	

2. 分析結果と課題

○ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる。

○ 解答類型 3 に該当する生徒は、borrow の意味を理解できていないか、2 文目を正確に読み取ることができていないと考えられる。

設問（２）

趣旨

日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ウ 読むこと

(イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
⑤	(2) 1 1 と解答しているもの	12.0	
	2 2 と解答しているもの	7.5	
	3 3 と解答しているもの	74.7	◎
	4 4 と解答しているもの	5.7	
	99 上記以外の解答	0.0	
	0 無解答	0.2	

2. 分析結果と課題

- 日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる。
- 解答類型1に該当する生徒は、動詞と目的語の部分 (were taking pictures や was watching the birds), または前置詞句による後置修飾を含む主語 (a man with a bag) を正確に読み取ることができていないと考えられる。

設問（３）

趣旨

日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ウ 読むこと

(イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
5	(3)	1	1 と解答しているもの	7.9	
		2	2 と解答しているもの	7.4	
		3	3 と解答しているもの	10.7	
		4	4 と解答しているもの	73.6	◎
		99	上記以外の解答	0.1	
		0	無解答	0.4	

2. 分析結果と課題

- 日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができている。
- 解答類型1に該当する生徒は、文の後半部分の比較や月名を含んだ表現 (hotter than 20 °C in June) を理解することができていないか、グラフの読み取りを誤っていると考えられる。
- 解答類型2に該当する生徒は、比較の表現 (not warmer) や月名を理解することができていないか、グラフの読み取りを誤っていると考えられる。
- 解答類型3に該当する生徒は、比較の表現 (hotter than 25 °C for three months) を理解することができていないか、グラフの読み取りを誤っていると考えられる。

3. 学習指導に当たって [対応設問：(1)(2)(3)]

日常的な話題について、簡単な語句で書かれた英語を正確に読み取ることができるようにする

- 簡単な語句で書かれた数文程度の英語を読み取るためには、既習の語や文法事項等の知識を活用して、文構造を適切にとらえたり、動詞等の内容語を正確に読み取ったりしながら、書かれているものの内容や、必要とする情報を取り出すことができる力を身に付けさせる必要がある。

具体的な指導としては、以下のような活動が考えられる。

- ・ 音声で十分慣れ親しんだ語句や文を使った英語の場合は、口頭導入でおおまかな内容を理解してからではなく、初めから独力で読み取る活動
- ・ 絵やグラフなどの資料を含む英文を読み取る活動
- ・ 様々な形式の英語 (広告、メニュー、メモ、メールなど) を読み取る活動
- ・ 読む時間を設定するなど、短時間で内容を把握する活動

本問においては、個々の単語を抽出して指導するだけでなく、borrow books や take pictures などの語と語のつながりや、a man with a bag や hotter than 20 °C など、語句の修飾関係に着目して英語を読み取らせる指導が考えられる。

英語 6 話のあらすじを読み取る

6 英語の授業で、身近なものを調べて発表することになりました。次の英文は、ある生徒が、100円ショップについて調べてまとめたものです。これを読んで、発表の始めに話の流れを示すスライドとして最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。

We have many 100-yen shops (*hyakkin*) in our city. We can buy many kinds of things for 108 yen now. One of the biggest sellers is stationery. Many people buy kitchen items and cleaning items, too. We can also get food, toys, and even clothes.

There were some shops like *hyakkin* long before the first *hyakkin* shop opened. In the 1930s, Japan had “10-sen shops.” Everything in these shops was 10 sen. They were very popular. Their number went down during World War II. In the 1960s, some supermarkets or department stores had 100-yen corners or 100-yen events. In 1985, the first *hyakkin* opened in Aichi. In the 1990s, a lot of *hyakkin* opened in Japan. Today there are about 8,000 shops.

There are shops like *hyakkin* in many countries. For example, in the U.S., they have one-dollar shops. I was surprised that some of these shops sell medicine. We cannot buy medicine at *hyakkin* in Japan. The U.K. has one-pound shops. In the U.K., DIY is popular, so there are many items for DIY at one-pound shops. Many other countries also have shops like *hyakkin*.

(注) the biggest seller: 最も売れているもの stationery: 文房具
 item: 商品 1930s: 1930年代 (1960s, 1990sも同様)
 sen: 銭 (日本の古い通貨単位) World War II: 第二次世界大戦
 department store: デパート corner: コーナー
 pound: ポンド (イギリスの通貨単位)
 DIY: 日曜大工 (趣味で行う簡単な大工仕事)

1

100-yen Shops
(1) The number of shops
(2) History
(3) Popular items

2

100-yen Shops
(1) Popular items
(2) <i>Hyakkin</i> in the world
(3) The number of shops

3

100-yen Shops
(1) The number of shops
(2) <i>Hyakkin</i> in the world
(3) History

4

100-yen Shops
(1) Popular items
(2) History
(3) <i>Hyakkin</i> in the world

出題の趣旨

まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができるかどうかをみる。

本問は、発表活動のためにまとめられた文章を読み、話のあらすじを読み取る問題である。「話のあらすじを読み取る」とは、まとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語の意味や一文一文の解釈など、内容の特定部分にのみとらわれたりすることなく、おおまかな流れを把握することを意味する。コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、そうした読み取り方を身に付けておく必要があることから出題した。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ウ 読むこと

(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
⑥	1	1 と解答しているもの	14.0	◎
	2	2 と解答しているもの	14.2	
	3	3 と解答しているもの	7.7	
	4	4 と解答しているもの	63.7	
	99	上記以外の解答	0.1	
	0	無解答	0.4	

2. 分析結果と課題

- 解答類型1に該当する生徒は、many 100-yen shops という表現をとらえて、第1段落が「店舗数」について書かれた段落であると読み違えたり、popular という語をとらえて、第3段落が「人気商品」について書かれた段落であると読み違えたりして、一つ一つの段落に書かれている要旨を読み取ることができていないと考えられる。
- 解答類型2に該当する生徒は、World War II という表現の world という語をとらえて、第2段落が「世界の100円ショップ」について書かれた段落であると読み違えたり、“There are shops like *hyakkin* in many countries.” という表現をとらえて、第3段落が「店舗数」について書かれた段落であると読み違えたりして、一つ一つの段落に書かれている要旨を読み取ることができていないと考えられる。
- 解答類型3に該当する生徒は、many 100-yen shops という表現をとらえて、第1段落が「店舗数」について書かれた段落であると読み違えたり、World War II という表現の world という語をとらえて、第2段落が「世界の100円ショップ」について書かれた段落であると読み違えたりして、一つ一つの段落に書かれている要旨を読み取ることができていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって

日常的な話題に関する説明やエッセイ、物語などを読んで話のあらすじを読み取ることができるようにする

- 説明文やエッセイ、物語など、まとまりのある文章のあらすじを読み取る際には、文章全体を通して、段落相互の関係を考えながら読むことが大切である。指導に当たっては、読みやすい部分を手掛かりにしながら、読みづらい部分についても、推測して読み進めていくようにしたい。また、文章を読むことに慣れさせるためには、教科書や他の題材を数多く読ませることが必要である。

具体的な指導としては、以下のような活動が考えられる。

- ・ 文章全体や段落ごとにタイトルを付ける活動
- ・ 話の内容を数文の英語でまとめる活動
- ・ 説明文を読み、手順などを整理する活動
- ・ 物語を読み、起きた出来事を順に整理する活動

※出典等

NHK World-Japan 「100 Yen Shops」、マネーポストWEB 「「100円ショップ」はこうして誕生した“生みの親”が語る原点」のウェブページなどを参考にした。

英語 7 説明文の大切な部分を読み取る

7 中学生の一郎は、スミス先生 (Ms. Smith) と話しています。次の会話文中の () 内に入る最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。

Ms. Smith: Ichiro, why don't you read this article? It's interesting.

Ichiro: Oh, thank you, but it's all in English. That's difficult for me.

Ms. Smith: This newspaper is for students. Try reading it!

Ichiro: OK.

[Ichiro reads the article.]

Chimpanzees are one of the smartest animals. They can do a lot of things. How smart are they? A team at a university in Japan found the answer. Some chimpanzees may be as smart as four-year-old children in some ways.

Few animals can understand *janken*. In *janken*, none is the strongest among *rock*, *scissors*, and *paper*. Learning about the relation among the three is very difficult.

The team tried teaching *janken* to seven chimpanzees. They showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees. The chimpanzees got food when they pointed to the stronger one. Finally, five of the chimpanzees learned *janken*.

The team also tried teaching *janken* to some human children. They found that children could learn *janken* when they were about four years old. Through this study, they got the answer to the question: "How smart are chimpanzees?"

[A few minutes later]

Ms. Smith: What is the most important point in this article?

Ichiro: () .

Ms. Smith: Right. That is the main point.

(注) article: 記事 chimpanzee: チンパンジー four-year-old: 4歳の
few: ほとんどない none is ~: いずれも~ない among ~: ~の中で
rock, scissors, and paper: グー, チョキ, パー (じゃんけんの指の出し方)
relation: 関係 human: 人間の study: 研究

- 1 Some chimpanzees may be as smart as four-year-old children
- 2 Few animals can understand *janken*
- 3 The team showed pictures of two different *janken* hands to the chimpanzees
- 4 The team found that children could learn *janken* when they were about four years old

出題の趣旨

まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができるかどうかをみる。

本問は、チンパンジーに関する説明文を読み、その前後の対話を参考にしながら、特に中心となる事柄など大切な部分をとらえる問題である。「大切な部分をとらえる」とは、ほとんどの場合、まとまりのある文章を最初から最後まで読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断することを意味する。コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、そうした読み取り方を身に付けておく必要があることから出題した。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ウ 読むこと

(ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
7	1	1 と解答しているもの	33.5	◎
	2	2 と解答しているもの	19.7	
	3	3 と解答しているもの	26.2	
	4	4 と解答しているもの	19.6	
	99	上記以外の解答	0.0	
	0	無解答	1.0	

2. 分析結果と課題

- 本問は、中学生にとってあまり読み慣れていないと思われる社会的な話題を題材としている。このような文章について、各段落の内容を理解した上で、書き手が最も伝えたいことを理解することに課題がある。
- 解答類型1～4は全て本文中に述べられている情報である。そのうち、解答類型2～4のように解答した生徒は、前後の対話文を理解することができていないために、書き手が最も伝えたいことを選べていないか、文章全体を読んだ上で、文中の“*How smart are chimpanzees(they)?*”という手掛かりを基に、書き手が最も伝えたいことを判断することができていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって

日常的な話題や社会的な話題に関する説明などを読んで、最も大切な部分を読み取ることができるようにする

- 説明文などの大切な部分をとらえる際には、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何であるか等を判断することが大切である。指導に当たっては、文章全体を漫然と読ませるのではなく、繰り返し用いられている語（句）や問いかけなどの手掛かりを基にして、最も大切な語句や文を選ばせたり、各段落の働きを理解させたりすることが重要である。

具体的な指導としては、教科書や他の題材を用いた、以下のような手順の言語活動が考えられる。

- ① 全体のおおまかな内容をとらえる
- ② 各段落の最も大切な内容を表す英文を選ぶ
- ③ それらを比較するなどして、文章の最も大切な部分について意見交換をする

このような活動を行う際には、日常的な話題にとどまらず、社会的な話題（自然環境問題や平和問題など）についての題材も扱うことが大切である。

※出典等

高潔，蘇彦捷，友永雅己，松沢哲郎「Learning the rules of the rock-paper-scissors game: chimpanzees versus children」(2018年1月『*Primates*』59(1))，京都大学霊長類研究所「チンパンジーがじゃんけんを学習：循環関係を理解する能力を備える」のウェブページなどを参考にした。

英語⑧ 読んだ内容について適切に応じる

⑧ 英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai!* We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

(注) the World Food Programme: 世界食糧計画 (国際連合の事業)
project: 事業 waste: ~を無駄にする rice ball: おにぎり
not only ~, but also ...: ~だけでなく、...も

出題の趣旨

書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができるかどうかをみる。

本問は、読んだことを基にして書くという技能統合の問題である。読んだ後に感想や意見、賛否、また、その理由を示すことを念頭に置いて、話の内容や書き手の意見などを主体的にとらえることができるかどうかを把握するために出題した。

現行学習指導要領の改訂の基本方針の一つとして、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、「4技能を総合的に育成する指導を充実する」ことが挙げられており、改訂によって増加した授業時数はそのような指導に充てることで改善を図ることになっている。

「読むこと」については、「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」が指導事項として新たに加わり、「単に内容を理解するだけでなく、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解していくことが必要となる」として、技能の統合を図ることで思考力や判断力の育成を図る指導の充実が指摘されている。本問はそうした力を問う問題である。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ウ 読むこと

- (ウ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
8	1 食糧を無駄にすることをやめるために自分ができることについて、十分理解できる英語（大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるものを含む）で解答しているもの (正答例) ・ We should not buy too much food. ・ if I can't eat everything, I can share it with others.	4.5	◎
	2 食糧を無駄にすることをやめるために自分ができることについて、おおむね理解できる英語（書き手の考えを伝える上で、大きな支障となる語や文法事項等の誤りがないもの）で解答しているもの (正答例) ・ We should not buy many food. (形容詞に誤りがある) ・ Why don't eat all food? (主語が欠落している) ・ If I can't eat everyting, I can share it with others. (つづりに誤りがある) ・ Buying enough food to eat for one day. (句で書いている)	2.9	○
	3 問題点が飢餓に苦しむ人々がたくさんいることだととらえ、自分ができることを解答しているもの（書き手の考えを伝える上で、大きな支障とならない程度の誤りがあるものを含む） (正答例) ・ We should give food to poor countries to help hungry people. ・ We should giving food to poor countries to help hungry people. (動詞の活用形に誤りがある) ・ Why don't send money to poor countries? (主語が欠落している) ・ To send money to poor countries. (句で書いている)	4.2	○
	4 食糧を無駄にすることをやめるために自分ができることを示していないもの	39.3	
	5 書き手の考えを伝える上で、大きな支障となる語や文法事項等の誤りがあるため、伝えたい内容が理解できないもの	19.9	
	99 上記以外の解答	2.0	
	0 無解答	27.3	

(1) 場面・状況

英語の授業で配られた食糧問題に関する英文を読み、文中に書かれた問いかけ（食糧を無駄にすることをやめるために何ができるか）に対する自分の考えを書く場面である。

(2) 採点の視点

<p>(思考・判断・表現) 食糧を無駄にすることをやめるために自分ができることについて書いて応じる</p> <p>(視点A) 具体的な解決策になっている (視点B) 理解できる英語で伝えたい内容が書かれている</p>
--

- 本問は「外国語理解の能力」を問う問題である。応答した内容や表現から判断して「書かれている内容をどれだけ理解しているか」ということに評価の重点を置いている。具体的には、「世界にはたくさんの飢えに苦しむ人々がいる一方で、日本では毎年大量の食糧が無駄になっている。この問題に対して私たちは何ができるだろうか」という書き手の問いに正対していることが正答の鍵となる。そのため、この問題に対する具体的な解決策になっている（視点 A）、理解できる英語で伝えたい内容が書かれていること（視点 B）を正答の必須条件とした。よって、「私は食糧を無駄にしない」といった、単に文中の表現を取り出しただけの解答は誤答とした。正答となり得るためには、「給食や毎日の食事を無駄にしない」といった具体例を挙げるなど、思考したことが分かるように記述する必要がある。

なお、本問は、「外国語理解の能力」に評価の重点を置いているため、採点に当たっては、「外国語表現の能力」を問う問題（大問10）とは差別化を図っている。具体的には、大問4と同様、名詞句、または、主語の欠落のある文で解答するなど、考えを伝える上で大きな支障となるには至らないと判断できるものについては、正答として許容している点が挙げられる。

2. 分析結果と課題

- 正答率は11.6%である。書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることに課題がある。
- 解答類型1, 2の反応率の合計は7.4%である。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- We don't waste the food in our school lunch.
- We don't waste dinner.

このように解答した生徒は、どのような食べ物を無駄にしないのか具体的に言及しているため、正答とした。waste dinner については、コロケーション（語の連結）に誤りがあるものの、無駄にしない食べ物が夕食であると思惟したことを読み取ることができるため解答類型2とした。

- 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- We have to stop wasting food.
- I think The world food programme is very nice project.
- We can eat two rice balls.
- I have no idea.

このように解答した生徒は、理解に支障をきたすような語や文法事項等の誤りはないものの、「食糧を無駄にすることをやめるために何ができるか」という問いかけに対し、同様の内容を繰り返すだけであったり、ただ感想を述べているだけであったりするなど、解決策としての適切さや具体性に欠けており、資料の内容を十分にとらえられていないと考えられる。また、「I have no idea.」といった意見自体をもっていないという解答については、本問の出題の趣旨に照らして、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解することができていないと考えられるため、誤答とした。

- 解答類型5の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ We waste not food.
- ・ I was hope waste food not every day.
- ・ I can every eating food. So washt eating two rice balls.

このように解答した生徒は、語順やつづりの誤り、動詞の欠落や重複など、考えを伝える上で大きな支障となる語や文法事項等の誤りがあり、資料の内容を理解することができていないか、もしくは自分の考えが思い浮かんでも、それを相手に伝わるような英語で表現することができていないと考えられる。

- 解答類型0に該当する生徒は、資料の内容を読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解することができていないか、もしくは自分の考えが思い浮かんでも、それを英語で表現することができていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって

読むだけにとどめずに、読んだ内容について、自分の考えを整理して述べるができるようになる

- 読んだことについて、自分の考えを述べる際には、単に内容を理解するだけでなく、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解していくことが大切である。指導に当たっては、読む目的に応じて要点を把握した上で、得られた複数の情報を取り出して総合的に判断し、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域間の統合的な言語活動を工夫することで、批判的な読み方を育てることが重要である。具体的な指導としては、以下のような手順の言語活動が考えられる。
- ① 教科書等に取り上げられている環境問題などに関する説明文を読み、書き手の主張を数文でまとめる
 - ② 話題になっている問題に対して、自分ができることなどについてペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったりする
 - ③ 活動の合間に、自分の使った英語を振り返り、表現の正確さを高める
 - ④ ペアやグループで伝え合ったことを、最終的な自分の意見として簡潔に書いてまとめる

※出典等

World Food Programme 「Overview」、政府広報オンライン「もったいない！食べられるのに捨てられる「食品ロス」を減らそう」のウェブページなどを参考にした。

英語⑨ 語や文法事項等を理解して正しく文を書く

⑨

(1) 次の①, ②について, () 内に入れるのに最も適切な語を, それぞれ 1 から 4 までの中から 1 つ選びなさい。

① Let's play tennis tomorrow () it's sunny.

1 and 2 if 3 but 4 or

② I saw a friend of mine at the station, () I had no time to talk to him.

1 if 2 or 3 but 4 because

(2) 次の①, ②について, 例を参考にしながら, 必要があれば () 内の語を適切な形に変えたり, 不足している語を補ったりなどして, それぞれ会話が成り立つように英語を完成させなさい。

(例) <放課後に図書室で>

A : Can you help me now?

B : Sorry. I () do () my homework now.

[答え] am doing

① <朝の通学路で>

A : I watched a baseball game yesterday. It was so exciting.

B : Oh! () like () baseball?

A : Of course. I love playing and watching baseball.

② <休み明けに教室で>

A : Was your vacation good?

B : Yes. My family and I went to Australia.

() stay () there for two weeks.

A : Wow! Wonderful.

(3) 次の表の①から③は, ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて, 彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

①	出身	Australia
---	----	-----------

②	住んでいる都市	Rome
---	---------	------

③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×
---	------------------------	---

※ 下の枠は, 下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

①

②

③



出題の趣旨

英語の基本的な語や文法事項等を理解して、正しく文を書くことができるかどうかをみる。

正しく文を書くためには、語や文法事項等の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる程度に高めておかなければならない。本問は、それらの知識や技能を身に付けているかどうかを把握することをねらいとしている。

設問（１）は、適切な接続詞を選ぶ問題である。接続詞は語と語、文と文を結束させ、文章を書く上で重要な役割を果たすものである。こうした接続詞の用法を理解しているかどうかを把握するために出題した。

設問（２）は、会話の流れから時制を判断して、１人称、２人称の英文を正しい語順で書く問題である。基本的な語や文法事項等を理解して、正しく文を書くことができるかどうかを把握するために出題した。

設問（３）は、与えられた情報に基づいて、３人称の英文を書く問題である。基本的な語や文法事項等を理解して、正しく文を書くことができるかどうかを把握するために出題した。

設問（１）①

趣旨

文の中で適切に接続詞を用いることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 エ 書くこと

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
9	(1) ①	1	1 と解答しているもの	5.9	◎
		2	2 と解答しているもの	80.2	
		3	3 と解答しているもの	7.0	
		4	4 と解答しているもの	6.6	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.3	

2. 分析結果と課題

- まとまりのある文章を書くには、文と文などを論理的につなぐ働きをもつ接続詞の使い方を理解しておくことが不可欠である。正答率は80.2%であり、接続詞 if の方法を正しく理解し、文の中で適切に用いることができている。

設問 (1) ②

趣旨

文の中で適切に接続詞を用いることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 エ 書くこと

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
9	(1)	1	1 と解答しているもの	2.8	
		2	2 と解答しているもの	2.4	
	②	3	3 と解答しているもの	59.2	◎
		4	4 と解答しているもの	35.1	
	99	上記以外の解答	0.0		
	0	無解答	0.5		

2. 分析結果と課題

- 解答類型 4 に該当する生徒は、主節との意味のつながりを正しく理解できておらず、「彼に話しかける時間がなかったので」という because を用いた従属節として解釈したと考えられる。

3. 学習指導に当たって [対応設問 : (1) ①, ②]

文の中で適切に接続詞を用いることができるようにする

- 接続詞は、語と語、文と文を結束させ、文章を書く上で重要な役割を果たすものである。その際、節を導く接続詞の習得には論理関係の理解が必要であるため時間がかかることから、言語活動を通して指導していくことが重要である。

具体的な指導としては、以下のような活動が考えられる。

- ・ 文脈の中で適切な接続詞が用いられているモデル文を見て、その内容を理解する活動
- ・ 2つの文の意味を考えた上で、適切な接続詞を用いて1つの文を作る活動
- ・ 適切な接続詞を用いて主節に続く従属節を作文する活動
- ・ 日本語と英語を比較しながら、主節と従属節の関係を考えるなど、英語の文構造を理解する活動

設問（２）①

趣旨

一般動詞の２人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 エ 書くこと

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
⑨	(2) ①	1 一般動詞の２人称単数現在時制の疑問文を正確に書いているもの (正答例) ・ Do you like	61.8	◎
		2 一般動詞の２人称単数現在時制の疑問文を書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの (正答例) ・ do you like	12.3	○
		3 一般動詞の現在時制の疑問文としているが、誤りがあるもの	1.5	
		4 一般動詞の現在時制以外の疑問文としているもの	0.5	
		5 be 動詞を用いた疑問文としているもの	2.0	
		6 類型５までとは異なる疑問文としているもの	2.9	
		7 疑問文となっていないもの	14.4	
		99 上記以外の解答	0.3	
		0 無解答	4.2	

2. 分析結果と課題

- 正答率は74.1%である。会話の流れから時制を判断し、正しい表現を用いて一般動詞の２人称単数現在時制の疑問文を書くことができている。
- 解答類型７の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ I like
- ・ I play
- ・ You likes
- ・ You are

このように解答した生徒は、会話の流れから疑問文を書くことを判断することができておらず、基本的な語や文法事項等を理解することもできていないと考えられる。

設問 (2) ②

趣旨

一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 エ 書くこと

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
9	(2) ②	1 一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書いているもの (正答例) ・ We stayed	20.5	◎
		2 一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの (正答例) ・ we stayed	0.3	○
		3 一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文ではないが、会話の流れに合う適切な表現となっているもの(大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるものを含む) (正答例) ・ I stayed	9.0	○
		4 過去時制の肯定文としているが、誤りがあるもの	8.1	
		5 過去時制以外の肯定文としているもの	17.3	
		6 類型5までとは異なる肯定文としているもの	10.7	
		7 肯定文となっていないもの	21.3	
		99 上記以外の解答	0.7	
		0 無解答	12.2	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3に該当する生徒は、会話の流れから過去時制であることを判断して、肯定文を書くことができている。ただし、My family and Iという主語を受けて、話し手の状況を判断してより適切な主語を判断することができていないと考えられる。

- 解答類型5の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- I stay
- We stay
- I stay in
- I'm stay

このように解答した生徒は、会話の流れから過去時制であることを判断することができておらず、正しい語や文法事項等を理解することもできていないと考えられる。

- 解答類型6の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- We staid
- I staid

このように解答した生徒は、過去時制における動詞 stay の活用形が理解できておらず、正しい語や文法事項等を理解することもできていないと考えられる。

- 解答類型7の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- stay
- stayed
- staies
- stay to

このように解答した生徒は、問題の指示文を理解できていないか、基本的な語や文法事項等を理解できていないため、会話の流れから1人称複数過去時制の文を主語と動詞という文構造で正しく書くことができていないと考えられる。

- 解答類型0に該当する生徒は、会話の内容を理解できていないか、基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないため、解答することができていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって〔対応設問：(2) ①, ②〕

場面や状況から文の形式や動詞の形(時制)を適切に判断し、正確に書くことができるようにする

- 文を正しく書くためには、言語材料の定着が必要である。コミュニケーションにおいて時制や人称は大事な事柄であり、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切である。指導に当たっては、一文のみを示して空欄の動詞の形を変えさせるのではなく、対話や文章の流れからふさわしい文の形式や時制を考えさせる活動などが考えられる。その際、確実な定着を図るために、ある程度の分量の練習をさせることも重要である。

※参照

指導に当たっては、平成24年度「特定の課題に関する調査（英語：「書くこと」）調査結果（中学校）」にある、

- ・ 「適切な文の形式を判断させる指導」 P. 17
- ・ 「時制や代名詞などに着目させ、文章を構成させる指導」 P. 21
- ・ 「文と文のつながりを工夫し、まとまりのある文章を書かせる指導」 P. 36, 37

なども参考になる。

* 「特定の課題に関する調査（英語：「書くこと」）調査結果（中学校）」
（全国101校 延べ3,225人の生徒を対象に実施）



設問（3）①

趣旨

与えられた情報に基づいて，3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 エ 書くこと

- (ア) 文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
9 ①	1 与えられた情報に基づいて，3人称単数現在時制の肯定文を正確に書いているもの (正答例) ・ She is from Australia. ・ She comes from Australia.	53.2	◎
	2 与えられた情報に基づいて，3人称単数現在時制の肯定文を書いているが，大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの (正答例) ・ she is from Australia.	1.0	○
	3 与えられた情報に基づいて解答しているが，動詞の活用形に誤りがあるもの	0.9	
	4 与えられた情報に基づいて解答しているが，語や文法事項等に誤りがあるもの	3.3	
	5 類型4までとは異なる誤りがあるもの	34.7	
	99 上記以外の解答	0.6	
	0 無解答	6.2	

2. 分析結果と課題

- 正答率は54.3%である。与えられた情報に基づいて，3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことに課題がある。
- 解答類型5の具体的な例としては，以下のようなものがある。

(例)

- ・ She from Australia.
- ・ She froms Australia.
- ・ I am from Australia.

このように解答した生徒は，問題の指示文を正しく理解できていないか，動詞の欠落など，基本的な語や文法事項等を理解して文を書くことができていないと考えられる。

設問 (3) ②

趣旨

与えられた情報に基づいて，3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 エ 書くこと

- (ア) 文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
9	(3) ② 1 与えられた情報に基づいて，3人称単数現在時制の肯定文を正確に書いているもの (正答例) ・ She lives in Rome.	30.5	◎
	2 与えられた情報に基づいて，3人称単数現在時制の肯定文を書いているが，大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの (正答例) ・ she lives in Rome.	3.2	○
	3 与えられた情報に基づいて解答しているが，動詞の活用形に誤りがあるもの	15.8	
	4 与えられた情報に基づいて解答しているが，語や文法事項等に誤りがあるもの	22.7	
	5 類型4までとは異なる誤りがあるもの	18.3	
	99 上記以外の解答	0.5	
	0 無解答	9.0	

2. 分析結果と課題

- 正答率は33.8%である。与えられた情報に基づいて，3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことに課題がある。
- 解答類型3の具体的な例としては，以下のようなものがある。

(例)

- ・ She live in Rome.
- ・ She lived in Rome.

このように解答した生徒は，正しく主語を選択し，肯定文を書くことはできているが，3人称単数現在時制であることを踏まえて，適切に動詞を活用させて文を書くことができていないと考えられる。

- 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- She is live in Rome.
- She lives Rome.
- She live is Rome.

このように解答した生徒は、正しく主語を選択しているが、語順や前置詞の欠落などの語法等に誤りがあり、基本的な語や文法事項等を理解して文を書くことができていないと考えられる。

- 解答類型5の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- I live in Rome.
- She stay Rome.
- Where does she live in sity?

このように解答した生徒は、問題の指示文を正しく理解できていないか、適切な動詞の選択など、基本的な語や文法事項等を理解して文を書くことができていないと考えられる。

設問 (3) ③

趣旨

与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 エ 書くこと

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
9	(3) ③	1	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書いているもの (正答例) ・ She doesn't have any pets. ・ She has no pets.	19.5	◎
		2	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの (正答例) ・ she doesn't have a pet.	18.8	○
		3	与えられた情報に基づいて解答しているが、一般動詞の否定形や動詞の活用形に誤りがあるもの	20.1	
		4	与えられた情報に基づいて解答しているが、語や文法事項等に誤りがあるもの	7.7	
		5	類型4までとは異なる誤りがあるもの	22.8	
		99	上記以外の解答	0.9	
		0	無解答	10.2	

2. 分析結果と課題

- 正答率は38.3%である。与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことに課題がある。
- 解答類型3の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ She don't has pet.
- ・ She don't have a pet.
- ・ She doesn't has a pet.

このように解答した生徒は、正しく主語を選択し、一般動詞の否定文を書くことは理解できているが、3人称単数現在時制であることを踏まえて、適切に動詞を活用させて文を書くことができていないと考えられる。

- 解答類型5の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ She has a pet.
- ・ She is not pet.
- ・ I have not pet.

このように解答した生徒は、問題の指示文を正しく理解できていないか、主語の選択や動詞の活用形など、基本的な語や文法事項等を理解して文を書くことができていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって〔対応設問：(3) ①, ②, ③〕

語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くことができるようにする

○ 言語材料を正しく用いて、伝えたい内容が読み手に伝わるように正確に文を書くことができるように指導することは大切である。その際、特定の言語材料のみを用いて文を書かせるだけではなく、コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動において、様々な個別の知識を活用させて文を書かせることを授業の中に位置付けるようにしたい。また、生徒の誤りについて生徒自身に考えさせるなどの指導を繰り返すことを通して、学習内容の理解が深まり、実際のコミュニケーションにおいて活用できる程度の技能を身に付けることにつながることを指導者として意識することが重要である。

具体的な指導としては、次のような活動が考えられる。

- ・ 憧れの人物や友達紹介など、3人称を扱った言語材料を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりして様々な場面で繰り返し使用する活動
- ・ 生徒同士で書いたものを互いに読み合い、誤りに気づき、修正を加える活動
- ・ 「ローマ出身です。」のように、日本語では省略される傾向にある主語が何であるかを考える活動
- ・ 「誰が？どうするの？どこに？」のような教師の発問を通して、英文を書く際に基本的な文や文構造を確認する活動

【コミュニケーションを支える文法指導に取り組んでいますか】

現行学習指導要領の下の英語教育は、移行期から約10年が経過しました。英語の授業はどのような改善が図られてきたのでしょうか。周知のとおり、現行学習指導要領の改訂の趣旨として「(コミュニケーション能力の) 基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る」ということが記載されています。授業時数が各学年105時間から140時間に増加したにもかかわらず、言語材料については、指導する語彙数が「900語程度」から「1,200語程度」に増えただけなのは、言語活動の充実を通して、言語材料の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を育成することを意図しているからです。

大問9で、基本的な語や文法事項等の理解を問う問題を出題しました。いわゆる「知識及び技能」を測る問題であり、生徒の習熟が十分に図られているべき文法事項であるとはなりましたが、調査結果は予想をはるかに下回るものでした。文法指導がコミュニケーション能力の育成を図る指導と対立するものではなく、円滑なコミュニケーションを行うためには必要不可欠であるということを強く認識し、授業改善について真剣に考えていく必要があります。

生徒が文法規則の説明を理解し、その規則を説明できたとしても、文法を十分に理解しているとは限りません。実際のコミュニケーションにおいて、その文法事項を用いて正しく英語で表現できたときに、その生徒は生きて働く知識を有していると言えます。では、そのような力を育成していくにはどうしたらよいのでしょうか。新学習指導要領では、文法事項の指導に当たって、コミュニケーションの目的を達成する上でいかに文法が使われているかに着目させ、その必要性や有用性を実感させながら、理解や練習と実際の使用のサイクルを繰り返し、言語活動と効果的に関連付けて指導することが大切であるとしています。これらのことを踏まえ、次のような点から授業を振り返ってみましょう。

●文法の理解や練習のための活動について

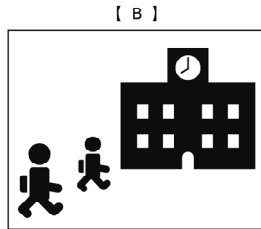
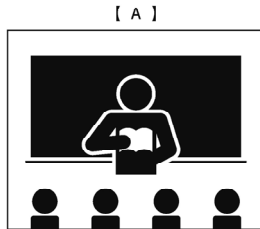
- 生徒の文法に対する気付きを促すのに十分な量の英語を聞いたり読んだりしていますか
- 文法の知識を聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの中で用いることができるように繰り返し練習させていますか
- 並び替え、穴埋め、和訳など、文脈を考えなくてもできるようなドリル的な学習に終始していませんか
(自分の考えや気持ちなどを表現する活動につなげられるようにすることが大切です。)

●文法を実際のコミュニケーションの中で用いる言語活動について

- コミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確にした活動になっていますか
(「be going to を用いてやり取りをしよう」ではなく、「夏休みの予定を確認して一緒に遊べる日を決めよう」など具体的な課題を設定することが大切です。)
- 実際に活用できることを目指した指導になっていますか
(意味のある文脈の中で文法事項を繰り返し用いる機会を与えることが大切です。生徒の伝える内容を重視して活動を行いましょう。)
- 使うべき言語材料を生徒自身に考えさせていますか
(ヒントを示しすぎると、伝える内容を思考・判断・表現する力を生徒からそいでしまうことになります。)
- 生徒とやり取りを行う中で、一人一人の英語の発話に耳を傾けていますか
(生徒の力はそれぞれ異なります。一人一人の実際の力を見極めて指導に生かすことが大切です。)

英語10 まとまりのある文章を書く

- 10 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)のうち、どちらがよいかウェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。



※ 短縮形 (I'm や don't など) は1語と数え、符号 (、 や ? など) は語数に含めません。

(例) No. I'm not. 【3語】

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

Blank writing area with horizontal lines and a dashed midline. The number '25' is printed on the right side of the first line, and '45' is printed on the right side of the last line.

出題の趣旨

与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

本問は、タウン・ガイドに利用する学校を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案のうち、どちらの案がよいかについてまとまりのある文章を書く問題である。「まとまりのある文章を書く」とは、自分の考えに加えてその理由を述べているなど、文と文の順序や、相互の関連に注意を払い、全体として話題や文章構成に一貫性のある文章を書くことを意味する。本問では、2つの案の対比を通して、理由を明らかにしながら、自分の考えを書くことができるかどうかをみるために出題した。

現行学習指導要領において、授業時数の増加に伴い、「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと」が指導事項として追加され、コミュニケーション能力の一層の育成を図ることになっている。

なお、全国的な学力調査に関する専門家会議による「全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する最終報告」(平成29年3月29日)は、①特に課題となっている生徒の発信力(「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」、「書くこと」)について、どのような課題があるかが明確になるような問題を出題すること、②与えられた話題について自分の意見や考えなどを論理的に書く力を測る問題(例えば、与えられた情報に対する自分の考えや気持ちなどを30語程度で話したり書いたりする問題等)を実施し、教育委員会及び学校において具体的なイメージを共有すること等が指摘されている。本問は、それらの趣旨を踏まえて出題した。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 エ 書くこと

- (オ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
10	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① どちらの案がよいか、1つ選んで意見を書いている。 ② 選んだ理由等について、2つの案に触れながら書いている。 ③ 25語以上の英語で書いている。 ~~~~~ (正答例) ・ I think A is better. It shows a teacher and students in a classroom, so it looks like a school. I don't think B is good because it looks like a library. [32 words] ・ I think B is better. It shows that students are walking to a building. People will understand it is a school. When people see A, they may think it is a <i>juku</i> . [32 words]		
	1 条件①, ②, ③を満たし、正確な英語(語や文法事項等の誤りが無い)で解答しているもの	0.1	◎
	2 条件①, ②, ③を満たし、おおむね正確な英語(コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りが無い)で解答しているもの (正答例) ・ I think A is better. It <u>show</u> a teacher and students in a classroom, <u>So</u> it looks like a school. I don't think B is good <u>because</u> it looks like a library. [32 words]	0.5	○
	3 条件①, ②, ③を満たして解答しているが、2つの案の触れ方について具体性に欠けるもの(コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りが無いものを含む) (正答例) ・ I think A is better. It shows a teacher and students in the classroom, <u>so it looks like a school</u> . I don't think B is good. [26 words]	1.3	○
	4 条件①, ②, ③を満たして解答しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの	33.0	
	5 条件①, ③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	4.1	
	6 条件②, ③を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	5.5	
	7 条件③を満たし、条件①, ②を満たさないで解答しているもの	5.2	
	8 条件③を満たさないで解答しているもの	28.9	
	99 上記以外の解答	13.4	
0 無解答	8.1		

(1) 場面・状況

海外のある町が、タウン・ガイドに利用する「学校」を表す2つのピクトグラム(案内用図記号)の案についてウェブサイト上で意見を募集している状況で、2つの案のうちどちらがよいかについて両者に触れながら自分の意見を書く場面である。

(2) 採点の視点

(思考・判断・表現)

2つの案について触れながら、どちらの案がよいか理由とともに自分の考えを書く

(視点 A) 正答の条件①, ②を満たした内容で書いている

(視点 B) コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがない英語で書いている

- 本問は「外国語表現の能力」を問う問題である。与えられた目的・場面・状況から判断して、「求められている内容をどれだけ適切に書いて表現しているか」ということに評価の重点を置いている。具体的には、2つの案に触れながら、どちらの案がよいか自分の意見を理由とともに書くことができているかどうか为正答の鍵となる。そのため、正答の条件①, ②を満たした内容で書いていること(視点 A)、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがない英語で書いていること(視点 B)を正答の必須条件とした。ここでいうコミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りとは、主語や動詞等の主要語の欠落や、文構造の誤り等を意味しており、「外国語理解の能力」を問う問題(大問4, 8)よりも、英語の表現の正確さについては高い基準を設定している。また、語数については、視点 A と視点 B を満たすためには25語は必要であると判断して、正答の条件③として設定した。

2. 分析結果と課題

- 正答率は1.9%であり、与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことに大きな課題がある。
- しかしながら、解答類型1～7の反応率の合計は49.7%であり、全体の約50%の生徒が25語以上の文章を書くことができおり、自分の考えを何とか伝えようとする意欲が見られた。語や文法事項等を正しく理解して文を書くことに課題があるために正答には至らなかったが、これらの確かな定着を図り、コミュニケーションに支障をきたすような誤りを修正することで、改善が図られていくものと考えられる。
- 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ I'm A better than B. Because I think A picture can many people anderstant. But B picture looks libraries. And A picture have teacher and students study there. So A picture is best. [33 words]
- ・ I think that B better than A. I not understand A is school. B is very kind of school. I can understand it. B is easier than A. [28 words]

このように解答した生徒は、2つの案のうちどちらがよいか1つ選び、さらには選んだ理由等について、2つの案に触れながら25語以上の英語で書くことはできている。しかし、コミュニケーションに支障をきたすような誤りがあり、正しく文章を書くことができていない。全体の約3分の1の生徒が本類型に該当し、基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないため、書きたいことはあっても正しく書き表すことができていないと考えられる。

本問は無生物主語を用いて書く必要があり、描写や説明などの言語活動に慣れ親しんでいないことも考えられる。

- 解答類型5の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- I think good picture is A. Because teacher's have a books and many student. teacher is at the write bood. I think of class room. [25 words]
- I choose B. Because it looks like a school building. And the children go to there. So, I think B is looks like a school. So I choose B. [29 words]

このように解答した生徒は、2つの案のうちどちらがよいか1つ選び、その案を支持する理由を書くことはできているが、自分の選ばなかった案と関連付けて理由を書くことができていない。これは、問題の指示文を理解できていないか、自分の考えを表現するための基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないためだと考えられる。

- 解答類型6の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- I think that school is studying subject. This is a pictures A childrens are teach subject a teacher. But that's a pictures B childrens are go to built where are go to childrens? [33 words]
- I think that good idea of A. A is teacher teaching for students. I think A as good as B. But I think better than A. [26 words]

このように解答した生徒は、どちらか1つの案を支持することが分かるように文を書くことができていない。これは、問題の指示文を理解できていないか、自分の考えを表現するための基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないためだと考えられる。

- 解答類型7の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- I have two reasons. First, we usually go to school by walk. Second, the picture is very easy. For example, when someone looks it, someone thinks that the picture is school. [31 words]
- School in teacher and students. teacher is teach everyone students. So difficult some time. But I think that good. And late not school. Because teacher angry. Its school enjoy everyone. [30 words]

このように解答した生徒は、どちらかの案を支持し、なぜその案がよいのかについて読み手に伝わるように表現することができていない。これは、問題の指示文を理解できていないか、自分の考えを表現するための基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないためだと考えられる。

- 解答類型8の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ I think that A. Because school is teaching. [8 words]
- ・ I think that is best A than B. A is students and teacher study. [14 words]
- ・ I think that good idea is A. Because teacher is teaching and students is listenig teacher's talk at A. [19 words]

このように解答した生徒は、条件①、②を満たしていないか、両方とも満たしていてもコミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるため、語数が不足したと考えられる。

- 解答類型99の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 私はAが良いと思います。理由はなんとなくです。

このように解答した生徒は、問題の指示文が理解できていないか、表現できるだけの語や文法事項等の知識が身に付いていないと考えられる。

- 解答類型0の反応率は8.1%である。このことから、問われていることが分かれば、自分の考えなどをなんとか伝えようとする粘り強さや意欲が見られた。なお、参考として、特定の課題に関する調査（英語：「書くこと」平成24年1月）における問題7「日本を訪れるとしたら夏と冬のどちらがよいかを、イギリス人の友人にメールで返答する」については、単に自分の意見を書くだけにもかかわらず、無解答率は14.5%であった。

3. 学習指導に当たって

テーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるようにする

- 与えられたテーマについてまとまりのある文章を書く際には、まずはテーマについての自分の考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるのかを考えながら書き表す必要がある。そのためには、テーマについて自分の考えをもつことができるようにすることや、伝えたいことを読み手に正しく伝えるために、語や文法事項等を正しく理解して書き表すことができるように指導することが必要である。さらには、例えば「自分の主張→主張を支える根拠や具体例」という構成で書くなど、文章形式を判断して書く言語活動を行うことも大切である。

具体的な指導としては、以下の4点が考えられる。

・ 「話して書く」「読んで書く」等の領域を統合した指導を行う

まとまりのある文章を書くことの指導の際には、ただ書く（文字化する）ことだけを取り上げるのではなく、事前活動や事後活動と併せて一連のプロセスとして指導するように心がけたい。

事前活動では、「ペアでやり取りして話したことを書く」や「読んだことについて感想や意見などを書く」など、複数の領域を統合させることで書く内容を増やしたりまとめたりすることが大切である。具体例としては、書く前の指導として、予備知識を活性化させるために、あるテーマについて生徒同士がやり取りをしたり、テーマに関連する短い読み物を読んだり

した上で、自分の考えや気持ちを整理して書く言語活動が考えられる。

・ **英文を読み合い、よりよく読み手に伝わるように書く指導を行う**

書いた後の言語活動としては、相手に正しく伝わる文章になっているか、生徒自身が読み直して誤りに気づき、修正を加えながら正確さを高める活動や、生徒同士で書いたものを読み合い、内容について質問をしたり、伝え方についてコメントを述べたりして、やり取りした内容を参考に推敲する活動などが考えられる。

・ **書くことを増やすための指導を行う**

書くことが苦手で分量のある英文を書くことができない生徒には、なぜ書けないのか、何につまずいているのかを教師が把握し、何をどのように書けばよいか、内容、文章構成、語彙や表現の面で手立てを考える必要がある。

まず、内容面では、書く前にウェビングを使うなどしてアイディアを出したり、自分の考えや気持ちをペアやグループで伝え合ったりする中で、書く内容を明確にしていく活動が考えられる。

次に、文章構成の面では、まとまりのある英文を書くときのステップチャートを示したり、テンプレートを用いて書きやすくしたりすることが考えられる。また、ゼロから書くのではなく、教科書のモデル文を参考にし、一部分を自分のことに変えることでオリジナルの文に書き換えるような活動を行い、書くことに慣れさせていくことも有効である。

語彙の面では、テーマに関する語彙を示して書きやすくしたり、辞書の使用を促したりすることなどが考えられる。また、表現の面では、意見を述べる表現などジャンルに応じてよく使われるものを教えておくことなどが考えられる。

・ **I, You 以外の主語を用いて書く指導を行う**

自分や相手のことを伝えるときに主として用いられる I や You に比べて、I と You 以外の主語の場合には、伝える内容が豊富になるだけでなく、主語の数に応じて動詞の形を変化させる場合や主語に適した動詞を選ぶ必要がある場合など、英語の文、文構造や文法を的確に活用する必要性が生じる。書くことの指導において、1人称や2人称 (I, You) を用いて自分や相手の気持ちや考えを表現することだけでなく、3人称 (He, She, It, There, 無生物主語など) を用いて客観的に事実を伝える力を養うことも重要である。例としては、調べたことについて説明や報告をしたり、絵や写真の様子を表現したりするような言語活動が考えられる。

- 新学習指導要領では新たに仮定法が文法事項に加えられた。それによって更に表現の幅が広がる。語や文法事項等が増えたことで表現できる内容が増えたこととらえて、有効に活用したい。

※解答の実例

解答類型 1

I think A is better. If we use B, some people will think that it's a hospital or a station. But if we use A, we can understand that it's a school because there is a teacher and there are some students. [42 words]

解答類型 1

I choose A. I have two reasons. First, A has some students, one teacher and a blackboard. Second, B may look like a library for someone. So I like A better than B. [33 words]

解答類型 2

I think that B is better than A. A isn't easy to understand for foreign people. But B is very simple. Two people go to big building. This building looks like school. So I think that B is easy to for many people. [43 words]

解答類型 3

I think A is gooder than B. I have two reasons. First, A is good design. It is simple so beautiful. Second, the teacher has a textbook so people will be able to understand that meaning teacher has. [38 words]

解答類型 3

I think B is better than A because A looks like a library. If I look at A, I don't think it is a school. But if I look at B, I think that it's is easy. [37 words]

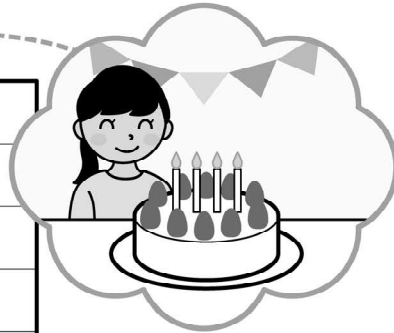
●話すこと

英語1 基本的な表現を理解して正しく応答する

これから画面上にイラストが表示されます。そのあと、イラストについての質問に英語で答えてください。問題は、(1) から (3) まであります。それでは始めます。

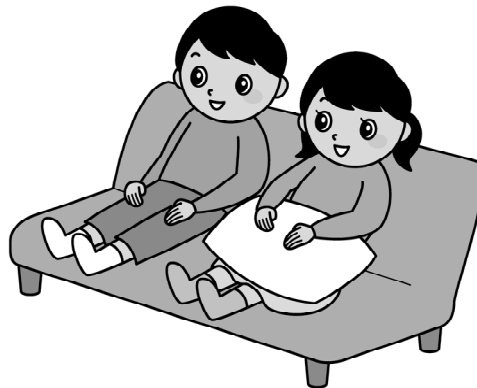
(1) **7**

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			



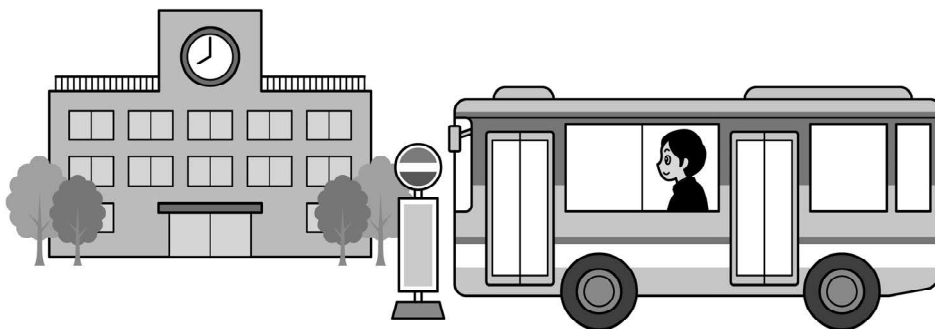
When is her birthday?

(2)



What are they doing?

(3)



How does he come to school?

出題の趣旨

- ・英語の基本的な音声の特徴を理解しているかどうかをみる。
- ・身近な英語の質問に正しく応答することができるかどうかをみる。

質問に正しく応答するためには、音声、語、文法事項等の知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる程度に高めておかなければならない。本問は、それらの知識や技能を身に付けているかどうかを把握することをねらいとしている。

設問（１）は、誕生日を答える問題である。基本的な表現を理解して、正しく応答することができるかどうかを把握するために出題した。

設問（２）は、２人の子供の様子を見て、何をしているのか（動作）を答える問題である。現在進行形を理解して、正しく応答することができるかどうかを把握するために出題した。

設問（３）は、交通手段を答える問題である。設問（１）と同様に、基本的な表現を理解して、正しく応答することができるかどうかを把握するために出題した。

設問（１）

趣旨

月日に関する基本的な表現を理解して、応答することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 イ 話すこと

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。
- (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
①	(1) 1 正しい月日を文で解答しているもの (正答例) ・ It's July second.	8.9	◎
	2 正しい月日を句で解答しているもの (正答例) ・ July second.	18.5	○
	3 正しい月日で解答しているが、語や文法事項等に誤りがあるもの	5.4	
	4 誤った月日を文で解答しているもの	7.8	
	5 誤った月日を句で解答しているもの	16.2	
	6 誤った月日で解答しており、語や文法事項等にも誤りがあるもの	14.9	
	7 類型6までとは異なる誤りがあるもの	14.5	
	99 上記以外の解答	4.2	
	0 無解答	8.6	

2. 分析結果と課題

- 正答率は27.3%である。月日に関する基本的な表現を理解して応答することに課題がある。
- 解答類型4, 5の反応率の合計は24.0%である。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- Her birthday is June second.
- July two.

このように解答した生徒は、月日に関する表現が身に付いていないと考えられる。

- 解答類型6の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- My birthday is April eighteenth.
- She's birthday is September two.

このように解答した生徒は、自分の誕生日を尋ねられていると思い違いをしたか、月日に関する表現や、基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないと考えられる。

- 解答類型7の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- Her birthday is.
- She birthday is.
- My birthday.

このように解答した生徒は、問い自体を理解できていないか、月日に関する表現や、基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって

基本的な表現を理解して正しく応答できるようにする

- 月日や序数、数字などは基本的な語彙や表現であり、多くの生徒が小学校から慣れ親しんできている。例えば、ただ全員で今日の日付を言わせて終わるだけでなく、実際に個々の生徒とやり取りする中で日付を発話させるなど活動を工夫していくことが大切である。その際は、紛らわしい発音や間違いの見られた言い方について、その場で確認し、生徒が間違いに気付き訂正できるようにする必要がある。

設問（２）

趣旨

基本的な文法（現在進行形）を理解して、応答することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 イ 話すこと

(ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。

(イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
①	(2) 1 正しい現在分詞を用いた現在進行形の文で解答しているもの (正答例) ・ They are watching TV.	34.3	◎
	2 正しい現在分詞を用いた句のみで解答しているもの (正答例) ・ Watching TV.	10.3	○
	3 正しい現在分詞を用いて解答しているが、語や文法事項等に誤りがあるもの	20.1	
	4 現在分詞を用いずに解答しているもの	10.0	
	5 誤った現在分詞を用いて解答しているもの	0.7	
	6 類型5までとは異なる誤りがあるもの	11.2	
	99 上記以外の解答	5.7	
	0 無解答	6.6	

2. 分析結果と課題

○ 正答率は44.7%であり、現在進行形を用いた基本的な表現を理解して応答することに課題がある。会話の中でのやり取りを想定しているため、解答類型2は、現在分詞＋目的語(watching TV)でも準正答としている。

○ 解答類型3の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ They watching TV.
- ・ I watching TV.

このように解答した生徒は、正しい現在分詞を用いて解答しているが、動詞の欠落や主語の選択などに誤りがあり、現在進行形の表現や、基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないと考えられる。

- 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- They are watch TV.
- I watch TV.

このように解答した生徒は、場面に合った watch という動詞を用いて解答しているが、現在分詞形にすることができておらず、問い自体を理解できていないか、現在進行形の表現や、基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないと考えられる。

- 解答類型6の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- I want TV.
- They are.

このように解答した生徒は、問い自体を理解できていないか、現在進行形の表現や、基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって

基本的な文法を理解して、正しく応答できるようにする

- 小学校から慣れ親しんできた基本的な表現も含め、文法の形式や意味だけでなく、その用法を理解することは、自分の考えや気持ちを伝える上で大切である。指導に当たっては、日常的话题について伝える活動の際に、内容の伝達に指導の重点を置きながら、活動中の生徒の言語使用の正しさについて具体的にフィードバックするなどして、正確な表現方法にも意識を向けさせることが必要である。それには、生徒同士のやり取りの様子を録音して自分の使用した英語について振り返らせる活動を行うなどして、文法の働きに気付かせたり、誤りを確認したりする指導を行うことも考えられる。

設問 (3)

趣旨

適切に強勢を置き、交通手段に関する基本的な表現を理解して、応答することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 イ 話すこと

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。
- (イ) 自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
①	(3) 1	He comes (to school) by bus. と bus に強勢を置いて解答しているもの	0.2	◎
	2	He comes (to school) by bus. と解答しているが, bus に強勢を置いていないもの	1.3	○
	3	He goes (to school) by bus. と bus に強勢を置いて解答しているもの	0.1	○
	4	He goes (to school) by bus. と解答しているが, bus に強勢を置いていないもの	0.8	○
	5	By bus. と解答しているもの	23.4	○
	6	正しい交通手段で解答しているが, 語や文法事項等に誤りがあるもの	35.9	
	7	交通手段を表す表現に誤りがあるもの	16.5	
	8	類型7までとは異なる誤りがあるもの	11.1	
	99	上記以外の解答	2.9	
	0	無解答	7.0	

2. 分析結果と課題

- 正答率は25.7%であり, 交通手段に関する基本的な表現を理解して応答することに課題がある。また, 交通手段に関する表現を用いても, 適切に強勢を置き, 正しく発音することに課題がある。
- 解答類型6の具体的な例としては, 以下のようなものがある。

(例)

- He is by bus.
- I go to the school by bus.
- You come to school by bus.
- It's eight on the by bus.

このように解答した生徒は, 正しい交通手段で解答しているが, 主語や動詞を正しく用いることができず, 基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないと考えられる。

- 解答類型7の具体的な例としては, 以下のようなものがある。

(例)

- He go to bus.
- My bus.
- By I school by car.

このように解答した生徒は, 交通手段を表す by を正しく使えておらず, 基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないと考えられる。

- 解答類型 8 の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- How does she come to school?
- I come to.
- He is.

このように解答した生徒は、問い自体を理解できていないか、基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって

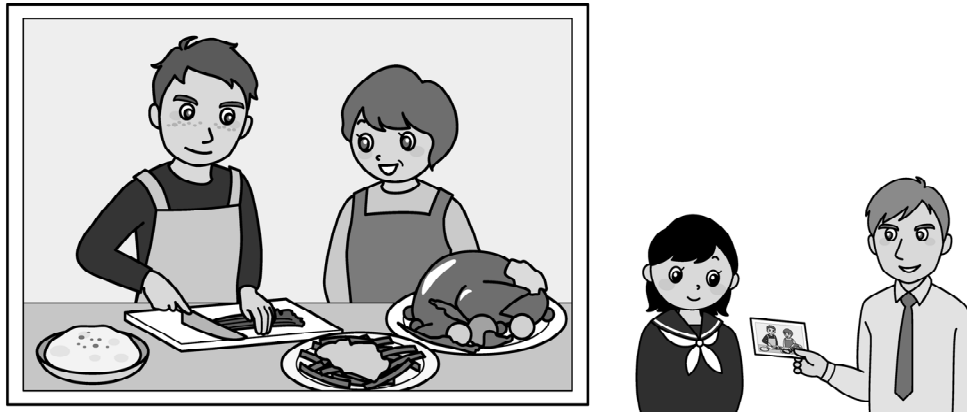
適切に強勢を置き、交通手段に関する基本的な表現を理解して、応答できるようにする

- 円滑なコミュニケーションを図るためには、基本的な音声の特徴を踏まえた発話が大切である。指導に当たっては、日常的な話題や身近な場面に関わる表現を扱う際に、語と語の連結による音変化や、語や句、文における強勢等を意識しながら、聞いたり話したりさせるようにすることが大切である。by bus, on foot 等、生徒が間違いやすい表現を把握し、意図的に教師の発話に用いるなどして、まとまった意味を表す結び付きとして意識させ、習熟させることが大切である。

英語² 即興でやり取りをする

あなたは、ユイコとアラン先生と話しています。まず、ユイコとアラン先生が、2人で話している場面から始まります。そのあと、あなたが尋ねられたら、2人のやり取りの内容を踏まえて、会話が続いていくように英語で応じてください。解答時間は20秒です。それでは始めます。

アラン先生が見せている写真



A: Look at this picture of my family.

This is my favorite picture.

Y: Nice! Who is she?

A: Oh, she is my mother, Nancy. And he is my brother, Tom. He can cook very well.

Y: I see. What kind of work does your mother do?

A: She is a teacher.

Do you have any other questions about them?

出題の趣旨

聞いて把握した内容について、やり取りすることができるかどうかをみる。

本問は、会話する2人のやり取りに加わり、即興で応じる問題である。情報や考えなどを即座にやり取りしたり、相手の発話の内容を踏まえて、それに関連した質問や意見を述べたりして、会話を継続させていくことができるかどうかを把握するために出題した。

「話すこと[やり取り]」は、新学習指導要領で新たに設定された領域である。もちろん、現行学習指導要領においても、言語活動の指導事項(ウ)「聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること」として[やり取り]の指導は行われているが、自分の考えや気持ちなどを適切に表現することが不十分であるとの反省に基づき、1つの領域として扱われることとなった。また、実際のコミュニケーション場面において、英文を頭の中で組み立てる時間が長く取れない等の理由から、新学習指導要領では「即興で」という条件も示されている。日常の会話から討論に至るまで、話し手と聞き手の役割を交互に繰り返す双方向でのコミュニケーションの機会が多いことを十分に踏まえ、[やり取り]の指導を考えていかなければならない。

なお、全国的な学力調査に関する専門家会議による「全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する最終報告」(平成29年3月29日)では、「特に課題となっている生徒

の発信力（「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」、「書くこと」）について、どのような課題があるかが明確になるような問題を出題すること」等が指摘されている。本問は、それらの趣旨を踏まえて出題した。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 イ 話すこと

(ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型	反応率 (%)	正答
②	1 やり取りを踏まえた内容（ナンシーやトムに関連した質問）を、正確な英語（語や文法事項等の誤りが無い）で解答しているもの (正答例) ・ What kind of food does your brother cook? ・ What subject does your mother teach?	8.4	◎
	2 やり取りを踏まえた内容を解答しているが、コミュニケーションに支障がない程度の誤りがあるもの (正答例) ・ What kind of food does your brother cooks? ・ What subject do your mother teach?	2.1	○
	3 やり取りを踏まえた内容を解答しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの	6.5	
	4 やり取りを踏まえた内容を解答していないもの	33.5	
	5 既出の情報について質問しているもの	0.9	
	99 上記以外の解答	27.8	
	0 無解答	20.7	

(1) 場面・状況

アラン先生が1枚の写真を見せながら、ユイコと話をしている。「あなたは、私のお母さんや兄（弟）についてほかに何か質問はありませんか」とアラン先生に尋ねられ、ユイコとアラン先生のやり取りを踏まえて適切な質問をする場面である。

(2) 採点の視点

<p>(思考・判断・表現) アラン先生の母や兄（弟）について、適切に質問する</p> <p>(視点A) やり取りを踏まえた質問をしている (視点B) 正しく伝わる英語で話している</p>

- 本問は、「外国語表現の能力」を問う問題である。与えられた場面・状況から判断して「アラン先生に尋ねられたことに適切に応答できているか」ということに評価の重点を置いている。具体的には、“Do you have any other questions about them?”というアラン先生の問いを聞いて、アラン先生の母や兄（弟）についての質問をすることが正答の鍵となる。そのため、やり取りを踏まえた質問をしていて（視点 A）、正しく伝わる英語で話していること（視点 B）を正答の必須条件とした。よって、「あなたの好きな料理は何ですか？」といった you を主語としたアラン先生に対する質問は、やり取りを踏まえていないものとして誤答とした。正答となり得るためには、「教師をしている母親のナンシーのこと」、「料理がとても得意な兄（弟）のトムのこと」、「二人で作っている料理」等に絡めた疑問文の形で表現する必要がある。
- 場面、状況に応じて多様な質問が想定されるが、上記の点と具体的な採点の視点を踏まえながら解答類型を設定している。

2. 分析結果と課題

- 正答率は10.5%であり、情報や考えなどを即座にやり取りしたり、相手の発話の内容を踏まえて、それに関連した質問や意見を述べたりして、会話を継続させていくことに課題がある。
聞いた英語が十分に理解できなかったために、「英語で応じてください」という指示文や提示された写真、単語等一部の聞き取れた情報から類推や判断をして解答した生徒、もしくは、やり取りの英語をほとんど聞き取ることができなかった生徒が多かったと考えられる。
- 解答類型1の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- What does he cook?
- How old is your mother?
- What is he cooking?
- What subject does she teach?
- What is your brother's job?

このように解答した生徒は、ユイコとアラン先生のやり取りの内容を踏まえ、語や文法事項等に誤りのない英語を用いて、ナンシーとトムに関わる質問をすることができている。

- 解答類型2の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- Is your brother teacher?
- How old is brother?
- What does she cooking now?
- What do they cooking?

このように解答した生徒は、動詞の活用形などコミュニケーションに支障をきたさない程度の誤りがあるものの、ユイコとアラン先生のやり取りの内容を踏まえ、ナンシーとトムに関わる質問をすることができている。

- 解答類型3の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- What's he doing cook?
- What cook do they?
- What there are cooking?
- Does your brother can play basketball?
- What does she teach subject?

このように解答した生徒は、ユイコとアラン先生のやり取りの内容を踏まえ、ナンシーとトムに関わる質問をすることはできているものの、コミュニケーションに支障をきたすような文構造等の誤りがあるため、自らの考えを伝えることができていないと考えられる。

- 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- What's foods do you like?
- Do you like what?
- What's name your grandmother?
- It's nice picture.
- You brother is cooking well.
- No, I haven't.
- This picture is very good. It looks very teacher.
- I think he is very nice cooking.

このように解答した生徒は、ユイコとアラン先生のやり取りの内容を理解していないか、何を問われているか理解していないため、適切な英語で応答できていないと考えられる。

- 解答類型5の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- Who is this boy?
- Does he cook well?
- What does she do?
- She is Mr. Alan's mother.

このように解答した生徒は、ユイコとアラン先生のやり取りで出てきた語句や文の一部(表面上の情報)だけにとらえることができたが、全体的な内容や流れは聞き取れていないため、一部の聞き取れた情報から場面を類推して質問をしている、もしくは、ユイコと同じ質問をしていると考えられる。

- 解答類型99, 0の反応率の合計は48.5%である。解答類型99の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ what's
- ・ cooking

このように解答した生徒は、何を問いかけられているかが分かっていないか、いつ自分の発話機会が訪れるか分からない状況で、話されているやり取りを聞きながら、即興で応じることに慣れていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって

聞いて把握した内容について、即興で応じたり質問したりできるようにする

- 日頃の授業で継続的にやり取りをする機会を増やし、それができる力を育てることが大切である。指導に当たっては、準備時間を設けず、最初から即興で伝え合う場面を設定することが重要である。必要に応じて、簡単なメモだけを見て話す支援もできる。また、教師自身が会話を継続・発展させる方法（ストラテジー）を駆使して生徒とやり取りをすることでモデルを示したり、既習の教科書を用いて、本文中の会話にどのようなストラテジーが使われているかを生徒に振り返らせたりすることも、生徒自身がそれらの有用性に気付き、意識的に使用することができるようになるために有効である。

英語③ まとまりのある内容を話す

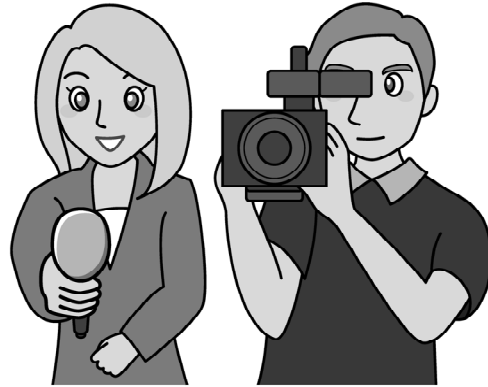
あなたの学校で、海外のあるテレビ局が「世界の子供たちの夢」というテーマで番組を収録しています。画面にある話してほしい内容の①、②について、英語で話してください。1分間、内容を考えたあと、30秒で話します。それでは、内容を考えましょう。

それでは、30秒で話してください。

話してほしい内容

(①, ②のどちらも話してください)

- ①あなたの将来の夢, または,
将来やってみたいこと
- ②その実現のために頑張っていること,
やるべきこと



出題の趣旨

与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる。

本問は、海外のあるテレビ局が「世界の子供たちの夢」をテーマに番組を収録するという場面において、テレビ局からの要望を書いたメモを基に、まとまりのある内容を話す問題である。「まとまりのある内容を話す」とは、1つのテーマに沿った、内容に一貫性のあるスピーチをすることを意味する。本問では、将来の夢というテーマについて、その夢の実現のためにやるべきことなどに関連付けて、自分の意見や主張を聞き手に対して分かりやすく話すことができるかどうかを把握するために出題した。

なお、全国的な学力調査に関する専門家会議による「全国学力・学習状況調査における中学校の英語の実施に関する最終報告」(平成29年3月29日)では、「特に課題となっている生徒の発信力(「話すこと(やり取り)」, 「話すこと(発表)」, 「書くこと」)について、どのような課題があるかが明確になるような問題を出題すること」等が指摘されている。本問は、その趣旨を踏まえて出題した。

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 イ 話すこと

- (オ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
3	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 将来の夢, または, 将来やってみたいことについて話している。 ② その実現のために頑張っていること, やるべきことについて話している。 ~~~~~ (正答例) ・ I want to be a farmer and grow delicious vegetables. My grandfather is a farmer, so I will help him and learn many things from him.		
	1 条件①, ②を満たし, 正確な英語 (語や文法事項等の誤りがない) で解答しているもの	40.0	◎
	2 条件①, ②を満たし, おおむね正確な英語 (コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがない) で解答しているもの (正答例) ・ I want to be a farmer and <u>growing</u> delicious <u>vegetable</u> . To be _ good farmer, I should study science harder.	5.8	○
	3 条件①, ②を満たして解答しているが, ①と②の関連性がない, または分かりづらいもの	0.3	
	4 条件①を満たし, 条件②を満たさないで解答しているもの	14.4	
	5 条件②を満たし, 条件①を満たさないで解答しているもの	13.3	
	6 条件①, ②を満たさないで解答しているもの	20.4	
	99 上記以外の解答	1.1	
	0 無解答	4.6	

2. 分析結果と課題

- 正答率は45.8%である。与えられたテーマについて考えを整理し, まとまりのある内容を話すことに課題がある。小学校で「伝えたいことを整理して話すことができること」を目標に取り組むことを踏まえ, それまでの学習内容や指導方法を発展的に生かす手立てを検討していく必要がある。

なお, 『Hi, friends! 2』の「Lesson 8 What do you want to be?」では, 本問と同様のトピックを扱っており, 多くの生徒が小学校外国語活動において自分の夢について話すという活動を経験してきていると考えられる。

- 正答の条件①を満たしている解答類型1～4の反応率の合計は60.5%であり, 約6割の生徒が将来の夢や将来やってみたいことを英語で答えられる段階まで到達している。

また, 本問は, 「話すこと」の調査の中で無解答率が最も低いことから, 自分の意見を話そうとする意欲は感じられる。生徒たちの話す意欲の向上は, 小学校段階から始まる言語活動の積み重ねの成果ともとらえられる。

- 解答類型4の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ I want to be a volleyball player. It was practice hard.
- ・ I want to be a soccer player. I...

このように解答した生徒は、将来の夢や、やってみたいことを答えることはできているが、夢の実現のために頑張っていることや、やるべきことを答えることができていない。自分の考えに根拠や例、情報等を付け加えて話すことに課題がある。

- 解答類型5の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ I dream is create the game. I study English. I study program.
- ・ My dream is table tennis player in the future. I practice table tennis hard.

このように解答した生徒は、夢の実現のために頑張っていることや、やるべきことを答えることはできているが、基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないため、将来の夢や、やってみたいことを聞き手に伝わるように話すことができていないと考えられる。

- 解答類型6の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ I want to be...
- ・ I going to baseball player in the future because I play baseball.

このように解答した生徒は、自分の考えに根拠や例、情報等を付け加えて話すために必要な基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていないと考えられる。

3. 学習指導に当たって

与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができるようにする

- コミュニケーションの目的や場面、状況を意識した具体的な課題を設定し、まとまりのある内容を話すなど思考力、判断力、表現力等を育てる言語活動を意図的に行うことが大切である。それには、全体の文章構成を考えたり、一度発表した内容を構成面から振り返らせたりすることも大切である。単に自分のやりたいことや夢を伝えるだけでなく、短い準備の時間の中でそれらを整理して伝えること、さらに、目的・場面・状況に応じて、情報を加えて話し続けることを目指したい。指導に当たっては、相手意識を大切に、自分が聞き手であったら何を聞きたいかを考えさせたり、理解を確認しながら話させたりすることも有効である。

話すこと [やり取り] の指導に当たって

【即興的なやり取りを充実させた授業づくりのために】

生徒同士が即興的なやり取りを行う言語活動と同様に大切なのは、教師と生徒のやり取りです。教師と生徒の即興的なやり取りを通して、生徒は会話の流れや話し手の意図を聞いて理解する力を身に付けることができます。また、ペアやグループのやり取りに教師が積極的に介入したり、教師がやり取りの最後に生徒に発話を促す質問を投げかけたり、聞いている生徒に質問をするよう促したりすることは、大問2で問われている会話の流れを踏まえて応じたり質問したりする力を育成する上で大切な指導になります。また、教師と生徒のやり取りは、生徒にとってやり取りを継続・発展させる方法を使用するモデルにもなります。まずは、教師自身が「会話を継続・発展させる方法」や既習の文法事項を意図的に用いて、生徒との即興的なやり取りを楽しみましょう。

以下に具体的な指導のポイントを2つ示します。

◆ 生徒とのやり取りでは既習文法事項を意識した問いかけや応答を心がけましょう

教師が生徒とのやり取りを行う際には、やり取りを継続・発展させるモデルとなるよう、既習の文法事項を意図的に用いて生徒とのやり取りを行いましょう。

日常的な話題についてのやり取り例（3年1学期を想定）



You look tired. What time did you go to bed last night?

...Eleven thirty.



What were you doing at eleven last night?

生徒の表情や雰囲気をとらえ、既習表現を用いてやり取りを広げましょう

Science... ah... science プレゼン ... tomorrow.



Oh, you were studying science to MAKE a good presentation. I'm interested in science and English. Do you like science?

やり取りを中断せずに訂正しましょう
教師自身の考えや気持ち、感想を伝えましょう（教師自身が英語のやり取りを楽しむ）

Yes, I... have... I make? a presentation... star??



About stars! Sounds interesting! I will go and see your presentation in science class.

◆ 生徒とのやり取りではいろいろな返し方をしましょう

ペアワークに教師が介入する場面と、全体の前で代表生徒とやり取りをする場面では、教師の英語による返しも変わるはずですが、また、生徒の英語力などに合わせて、以下の例を参考に換えられるようにしましょう。



What will you give your grandmother for her birthday?



Give... flowers?



← 以下の（１）から（４）のような返し方が可能です。

- （１）生徒の発話を誘導する You... will...?
- （２）もう一度言い直しをさせる Will you say that again?
- （３）やり取りとして継続させる Sorry... you will give her some flowers?
- （４）生徒の誤りを正して教師が言い直す You will give her some flowers.

